

KONA

スタンダードソフト
for WINDOWS

取扱説明書

KADEC

暫定版

はじめに

このたびは、コーナシステム「KADEC-Uシリーズ・スタンダードソフトforWINDOWS」をお買上頂きありがとうございます。

本スタンダードソフトforWINDOWSは当社KADEC-Uシリーズの全ての機種をサポートしており、測定時の設定、記録データの回収、データ表示などの機能があります。ご使用前に、本取扱説明書を十分ご参照の上、正しくお取り扱い、運用くださいますようお願いいたします。お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、大切に保存してください。

★ご注意およびお願い

- 本説明書の内容の一部または、全部をコーナシステム株式会社の許可なく無断転載することは、禁止されています。
- 本説明書の内容に関して予告なく変更することがあります。
- 本説明書の内容について、ご不明な点、誤り、記載漏れなどお気づきの事がございましたらコーナシステム株式会社までご連絡ください。
- 運用した結果の影響につきましては、前項に関わらず責任をおいかねますので、ご了承ください。
- WINDOWS等の各製品名は、各社の商標または登録商標です。

目 次

1.スタンダードソフトの概要	01	9.表示	24
1-1.各処理項目	01	9-1.ファイル情報表示	24
1-2.システムフロー図	02	9-2.データ表示	25
1-3.操作概要	03	9-3.グラフ表示	26
1-4.保存データファイル	04	9-4.グラフ表示 [複合]	28
		9-5.データ履歴	29
2.動作可能機器の確認	05	10.オプション	31
3.プログラムのインストール方法	06	11.ヘルプ	31
4.ソフトの起動方法	09	12.操作上の注意事項	32
5.システム	10		
5-1.印刷	11		
5-2.印刷プレビュー	11		
5-3.プリンタの設定	12		
5-4.システム設定	12		
5-5.アプリケーションの終了	12		
6.観測地点	13		
6-1.観測地点選択	13		
6-2.接続	15		
6-3.コントローラ設定	16		
6-4.保守	19		
6-5.切断	19		
7.回収	20		
8.ファイル	21		
8-1.データファイル選択	21		
8-2.ファイル作成	22		
8-3.ファイル結合	23		

1. スタンダードソフトの概要

スタンダードソフトは、パーソナルコンピュータのWindows上で動作します。当社KADEC-Uシリーズの全ての機種をサポートしており、測定時の設定、記録データの回収、データ表示などの機能があります。スタンダードソフトには7つの処理項目があり、メインメニューから各処理の項目をマウスを動かして、ポインタを移動させ、各サブメニューより目的の処理項目を選択することにより実行します。

各処理および機能の概要は、次のとおりです。



1-1. 各処理項目

■ システム

印刷、印刷プレビュー、システム設定等を行います。システム設定では保守用パスワードを入力すると、KADECの内部係数の変更などの処理が行えます。

■ 観測地点

スタンダードソフトを実行する上で使用する各種設定項目（ファイル出力先、パソコンの使用するCOMポート、SEQやPRNファイルの作成の有無など）や、KADECとの通信接続・切断、KADECの動作モードの設定等を行います。通信、データ処理を行なう前に内容の確認と設定を必ず行ってください。

■ 回収

KADEC・ハンディカード・ハンディカードプロと通信を行い、測定データを回収します。

■ ファイル

回収済みのデータファイルの読込とパソコン内部に読み込んだデータをファイルに書込みます。この時指定できるファイル形式は、従来のDOS版の時と同様に、BIN形式、SEQ形式、PRN形式が指定できます。

またSEQファイルの結合もこのメニューで行います。

■ 表示

回収したデータをファイルメニューで選択した後、ファイルデータの表示とグラフ表示を行います。またリングモードで記録したデータの場合はデータ履歴のサブメニューでリングの切替を行えます。

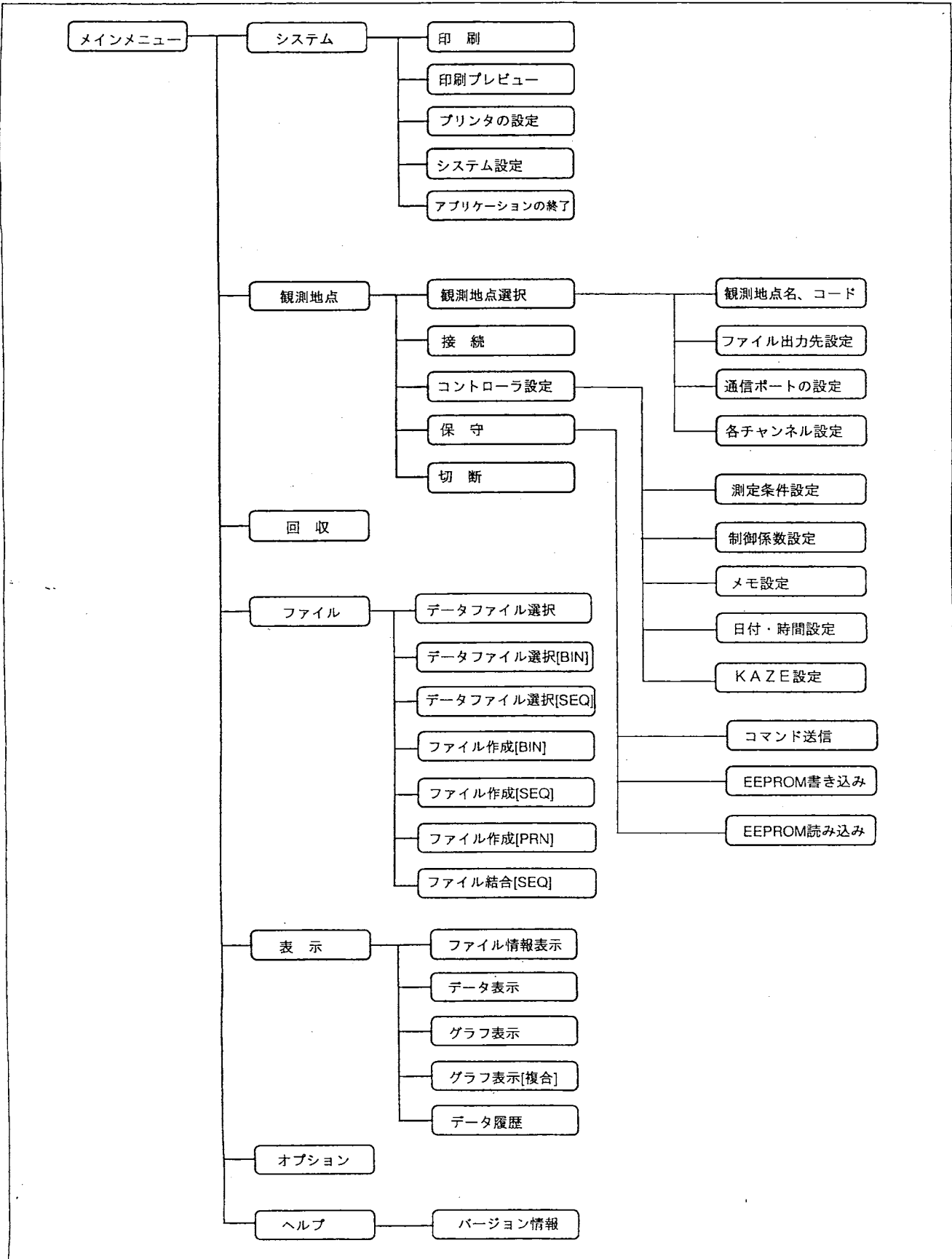
■ オプション

別売りの日報月報処理ソフト等を組み込むと、このオプションメニューから起動できるようになり、KADECスタンダードソフトと日報月報処理ソフト等が統合環境で使用できるようになります。

■ ヘルプ

プログラムのバージョン表示や設定したIDコード等を表示します。本ソフトに関するお問い合わせ時には必ず参照して下さい。

1-2.システムフロー図

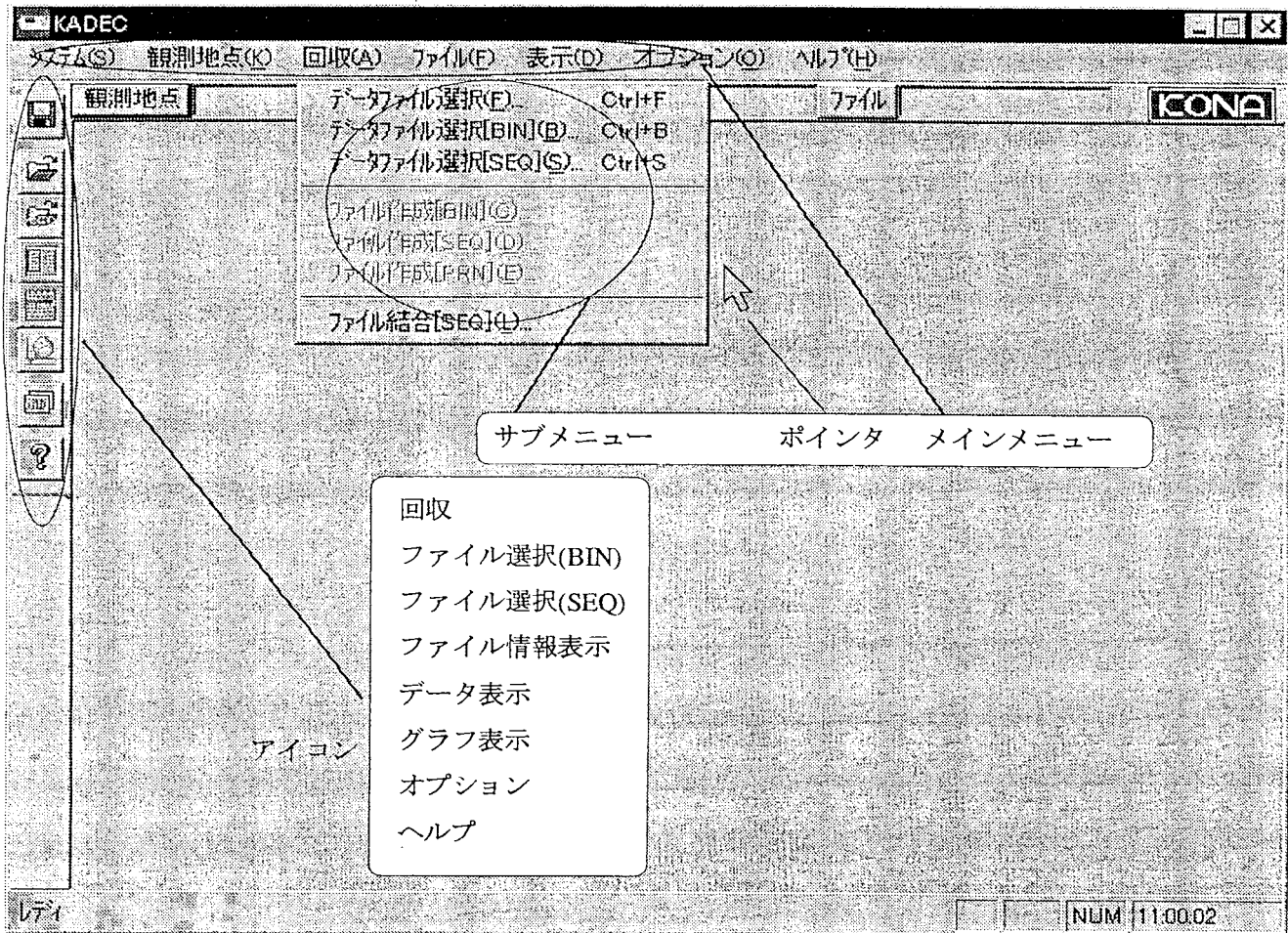


1-3. 操作概要

スタンダードソフトの操作方法は、Windowsの操作方法に準拠しており、各処理をマウス操作によって行います。

メインメニューより処理項目を選択する事によりサブメニューが表われ、マウス操作でポインタを移動させて項目を選択し、マウスボタンをクリック (押す) することによって実行します。またよく使われる機能については、アイコンを用意していますので、それを直接クリックすることにより実行します。

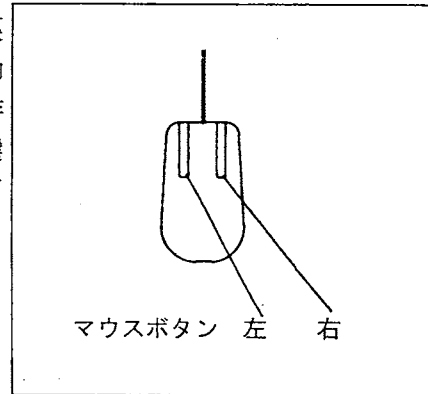
なお、マウスがないときは、カーソルキー、[リターン] キー等を使用して操作することもできます。



■.マウス操作方法

パーソナルコンピュータのマウスは右図に示す様な形で、マウスの裏の中心に回転するボールがあります。マウスを動かすとそのボールが動き、その動きに合わせて表示画面中のポインタが移動します。この操作によってメニューやグラフのデータ等の項目選択を行ないます。項目選択後、実行するときは、マウスにあるマウスボタンを押すことによって選択項目を実行したり、キャンセルしたりすることができます。

マウスボタンの左は実行ボタンで、マウスボタン右は、エスケープまたはキャンセルボタンとなっています。



■.キーボードによる操作方法

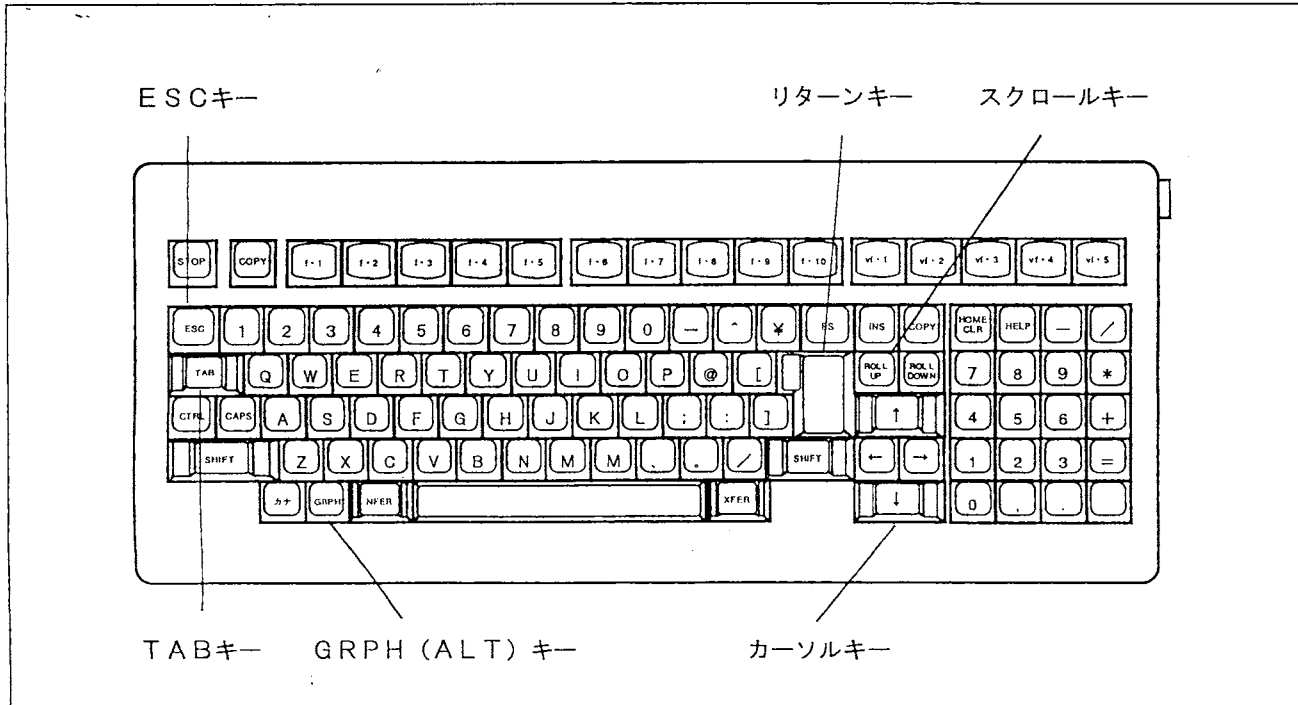
パーソナルコンピュータのキーボードを下図に示します。ただし、機種によっては多少異なりますが機能は同様な操作となります。マウスがないときや、数値または文字データを入力するときに操作します。

メインメニューを操作する場合、GRPH (ALT) キーを押して下さい。メニュー上に選択カーソルが表示されますので、上下左右のカーソルキーにより目的とするサブメニューの項目に移動、[リターン] キーで実行、[エスケープ] キーでキャンセルします。

また、各項目にはアクセスキーが設定されていますので、GRPH (ALT) キーを押しながら括弧内の下線付き文字で示す英文字を押すことにより、該当処理を実行します。

アイコンで起動する項目については、ショートカットキーが設定されていますので、Ctrl キーを押しながら設定されている英文字を押すことにより、直ちに処理を実行します。

ダイアログを操作する場合、[TAB] キーで項目を移動して英数字キーにより入力してください。



1-4.保存データファイル

保存データは、データ回収終了時に設定したファイル形式で保存されます。

通常はバイナリ形式ですが、設定によりテキスト形式 (SEQ、PRNファイル) でも保存できます。回収データファイルは、デフォルトで [TE?????.DAT] というファイル名で保存され、この?????の部分、データを取得したときの年月が自動的にセットされます。TEの部分任意に設定可能です。

2.動作可能機器の確認

スタンダードソフトを動作させるためには、次の仕様の機器が必要です。ただし、次の機器仕様に準じるものであれば型式にこだわる必要はありませんが、動作前に必ず確認してください。

■.パーソナルコンピュータ

DOS/V互換機およびNEC製PC98シリーズのパーソナルコンピュータで、CPU：486SX以上、メモリー：最低8Mバイト、フロッピーディスク、ハードディスクドライブを備えた装置が必要です。

(スタンダードソフトの供給メディアサイズは、標準で3.5インチ1.44Mバイトを標準としていますので、それ以外のメディアをご希望の場合、システム発注時に営業担当までご相談下さい。)

RS-232Cインターフェースは、標準に付属している回線および拡張ボードによる回線のいずれも、観測地点情報で設定することにより使用できます。ただし拡張ボードによる増設回線は、Windows上のデバイスマネージャのCOMポートに登録してスタンダードソフトなどのアプリケーションソフト側からCOMデバイスとして扱えるようにして使用して下さい。

上記のスペックは最低限のもので、よりスムーズな操作を望む方はご使用のパーソナルコンピュータは高速でメモリーやハードディスクに余裕のある機種を推奨いたします。

■.オペレーティングシステム

コンピュータを起動してフロッピーディスク、ハードディスク等をコントロールするソフトをオペレーティングシステムといいます。スタンダードソフトには、このオペレーティングシステムが組み込まれていません。マイクロソフト社のWindows95以上のオペレーティングシステムのもとで動作しますので、これらのオペレーティングシステムが組み込まれているコンピュータのハードディスクに本ソフトをインストールしてご使用ください。

なお、Windows95/98には対応しておりますが、Windows3.1には対応しておりません。

■.データディスク

データの保存は、ハードディスクおよびフロッピーディスク等の記憶装置に、出力先フォルダ名を設定して行うことができます。

またLANを構成しているコンピュータの場合、共有ファイルに出力することも可能です。

■.プリンタ

Windowsで動作するすべてのプリンタの機種に対して、本ソフトの印刷機能は動作します。

月報印刷などの出力帳票類はA4/B4サイズの出力が可能ですので、B4版で印刷する場合、B4対応のプリンタ機種をお選びください。

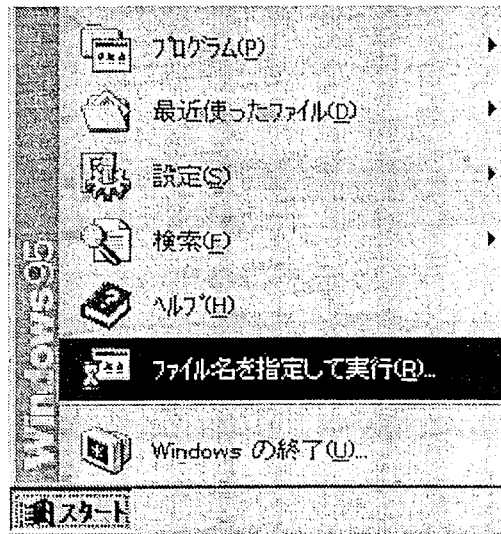
またLANを構成しているコンピュータの場合、プリンタサーバーに出力することも可能です。

3. プログラムのインストール方法

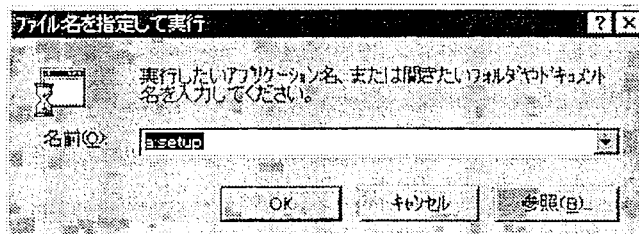
スタンダードソフトは、ハードディスクにインストールしてご使用下さい。

インストールは、添付されているインストール用のフロッピーディスクより行います。このフロッピーディスクを準備して、下記の手順で行って下さい。

- 1) スタンダードソフトのインストール用ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 2) Windows のスタートメニューから [ファイル名を指定して実行...] を選択します。



- 3) 下図に示すダイアログが表示されますので、[コマンドライン] 入力ボックスに、【a : s e t u p】と入力します。



ご注意

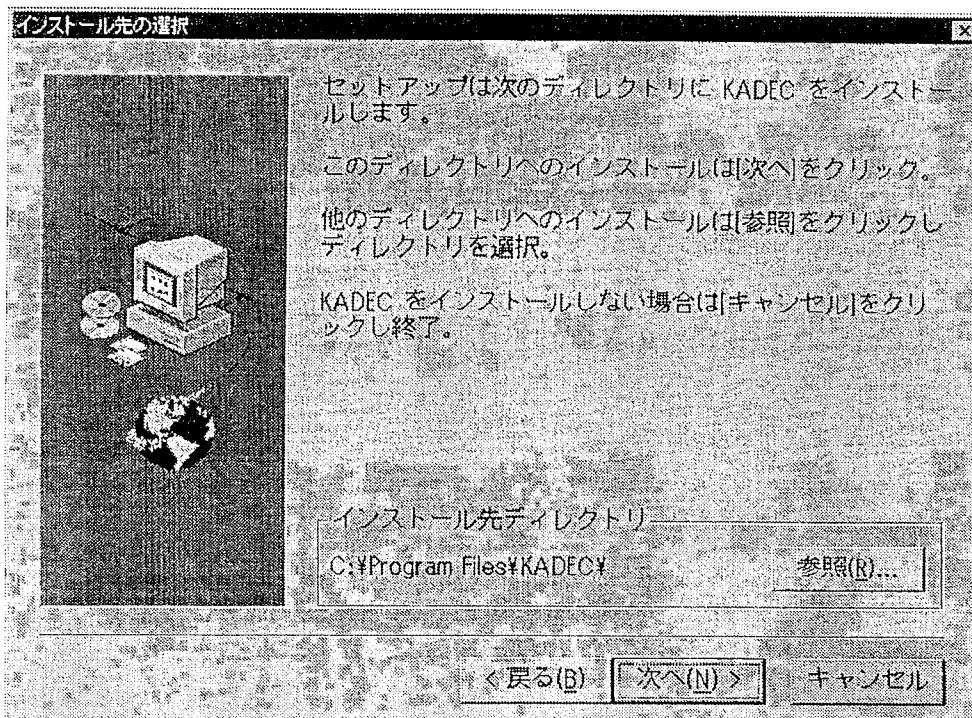
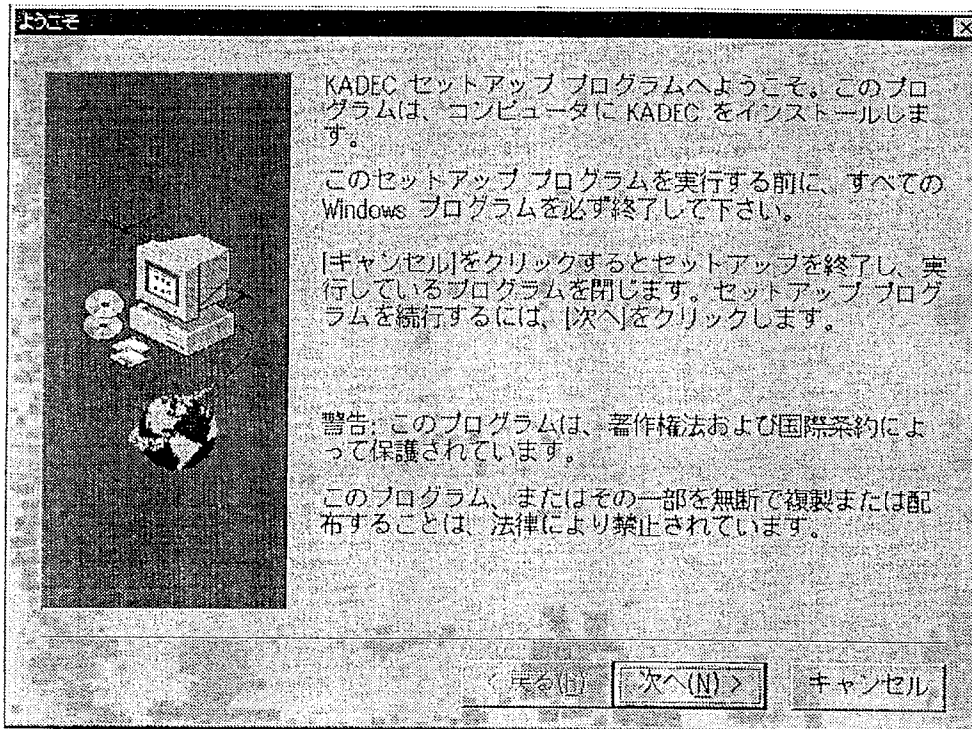
※「a :」はドライブ名です。インストール用フロッピーディスクをセットしたドライブ名を入力してください。

- 4) [OK] ボタンをクリックします。
インストール用のプログラムがローディングされますので、しばらくお待ちください。

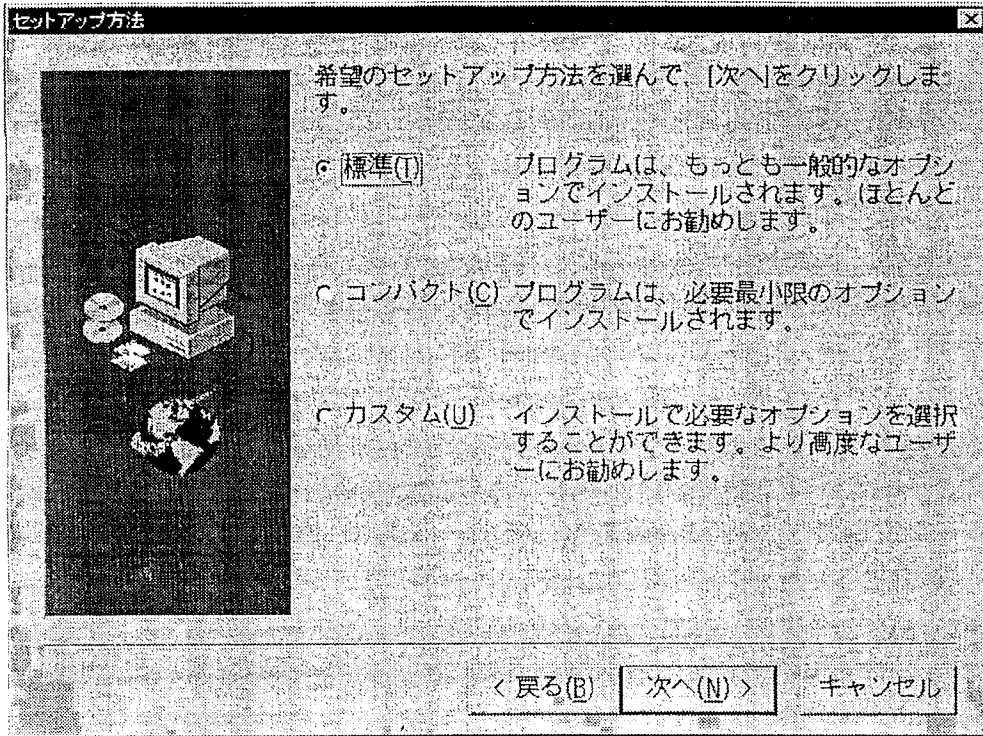
ご注意

※コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」によってもインストールプログラムを起動することができます。詳しくはWindowsの説明書等を参照して下さい。

5) 下図に示すダイアログが表示されますので、確認してよろしければ【次へ (N) >】のボタンを順次クリックしてください。



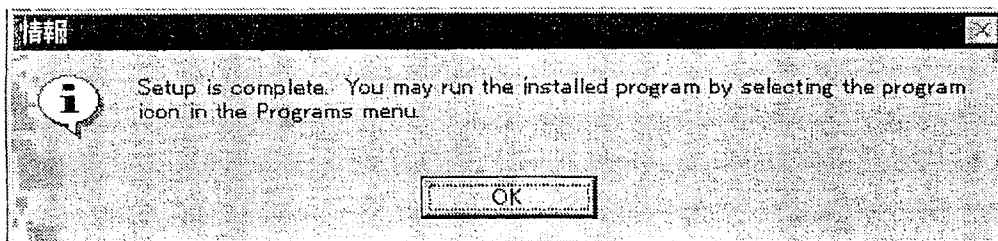
- 6) セットアップの方法を選択して【次へ (N) >】のボタンをクリックしてください。
 ここでスタンダードソフトの組み込みが始まりますので、しばらくお待ちください。



ご注意

※「標準」を選択した場合、サンプルの観測地点情報およびサンプルデータがインストールされますので不要の場合は「コンパクト」を選択してください。

- 7) インストールが完了し、下図のダイアログが表示されますので、【OK】ボタンをクリックして終了してください。



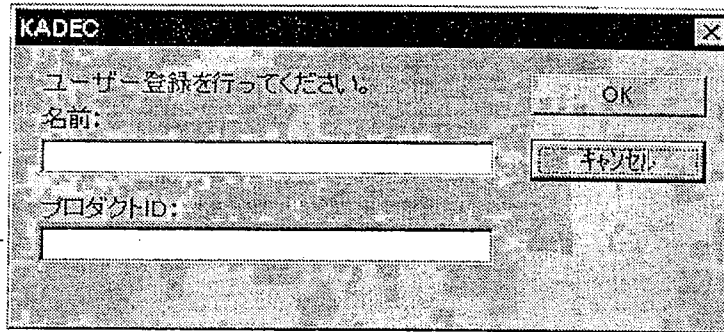
ご注意

※インストール処理では「Program Files」のフォルダ内に「KADEC」フォルダを新たに作成し、さらにそのフォルダ内に「Program」および「Data」フォルダを作成します。データファイルの保存先はデフォルトでこの「Data」フォルダに設定されています。

4. ソフトの起動方法

スタンダードソフトのインストールが終了しましたら、次の手順で起動を行い、動作確認をしてください。

- 1) Windowsのスタートメニューから [プログラム (P) ..] を選択し、さらにサブメニューから [KADEC] を選択します。
- 2) インストール後、最初の起動時のみ下記に示すユーザー登録のダイアログが表示されますので、下記の要領で入力してください。

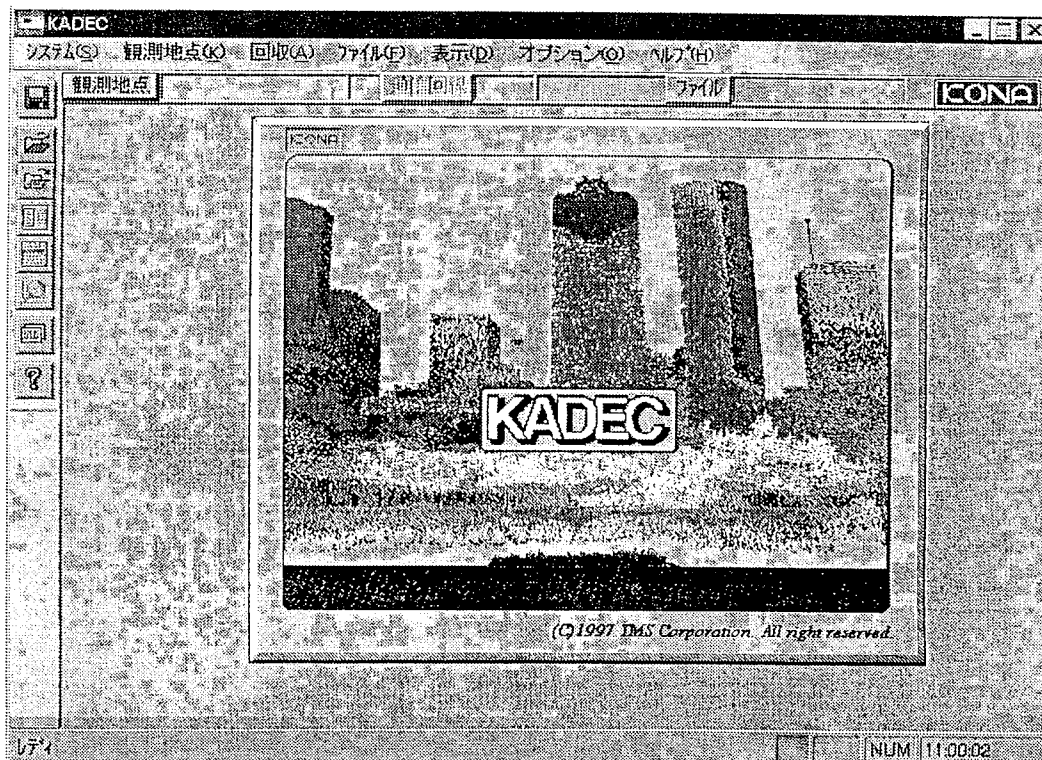


ユーザーの名前を入力してください。

インストール用フロッピーディスクの右下に記述されているロット番号を半角英数字にて正確に入力してください。まちがえて入力すると起動しません。

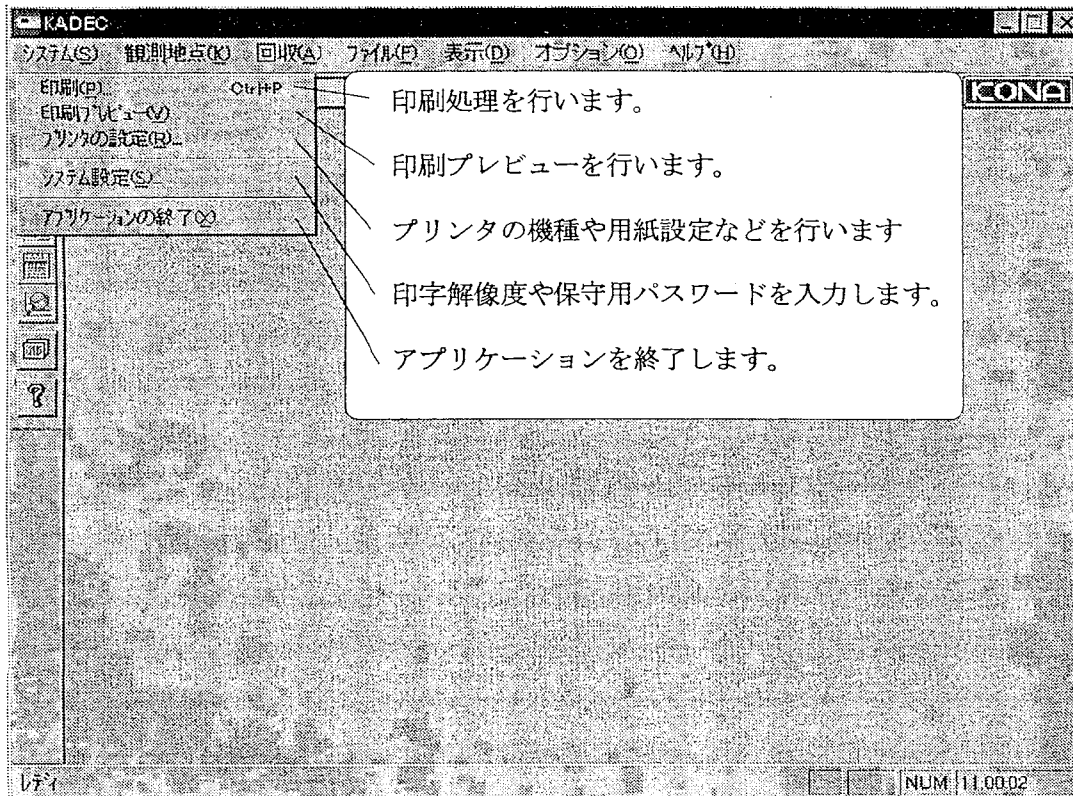
- 3) [OK] ボタンをクリックします。

スタンダードソフトが起動し、次のオープニング画面が表示されます。



5. システム

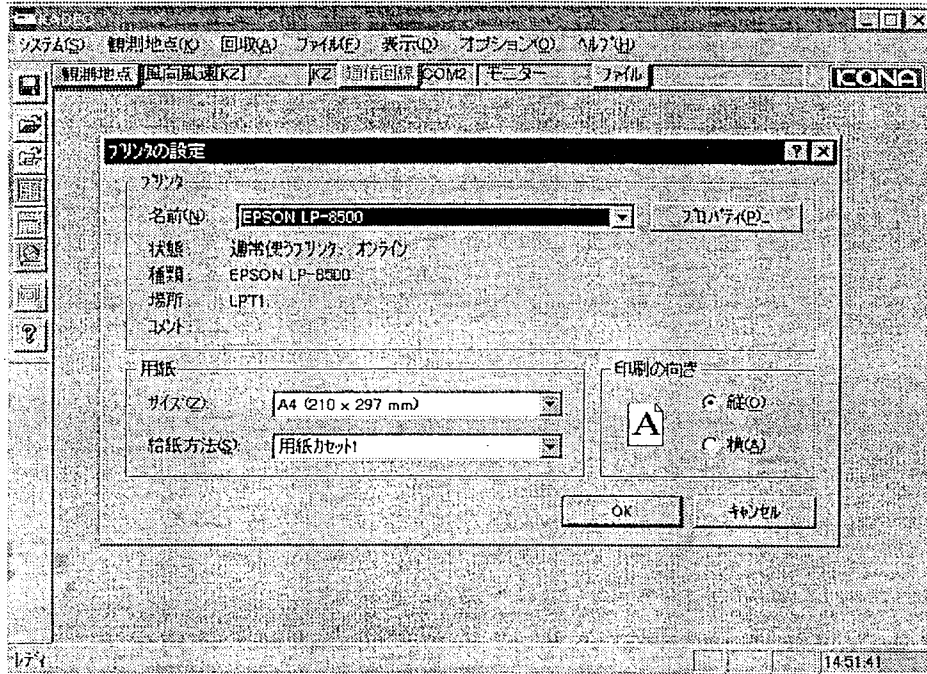
スタンダードソフトで印刷、印刷プレビュー、システム設定等を行います。システム設定では保守用パスワードを入力すると、KADECの内部係数の変更などの処理が行えます。メインメニューより [設定] を選択すると、次に示すサブメニューが表示されます。



5-1.印刷

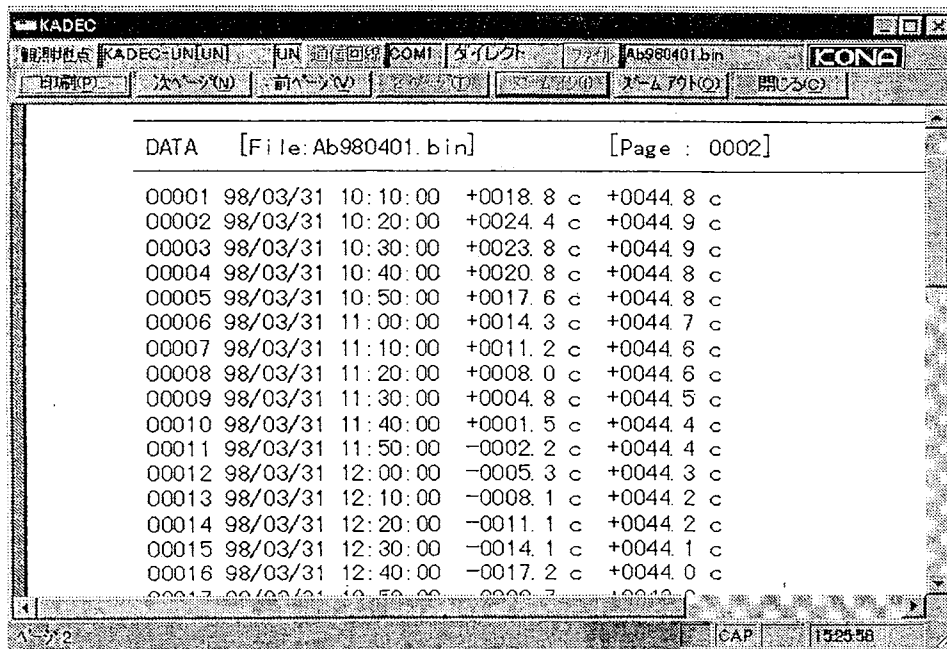
現在作業中のデータファイルまたは画面のハードコピーをプリンタに印刷します。

「データ表示」を処理中の場合はデータを、また「グラフ表示」等の場合は、画面のイメージをそのままプリンタに印刷します。



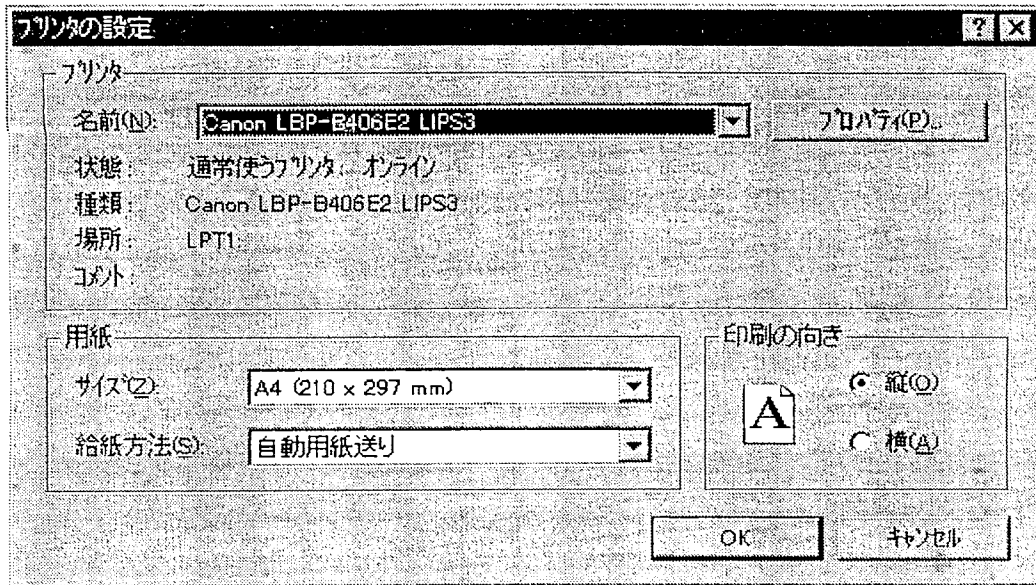
5-2.印刷プレビュー

「(1)印刷」の処理をあらかじめスクリーン上にプレビューして、印刷内容を確認しながらページごとに印刷します。



5-3. プリンタの設定

印刷に使用するプリンタ機種および用紙、印刷の向き等の印刷設定を行います。ここで設定する内容はパーソナルコンピュータ全体の動作環境として他のアプリケーションソフトと共通設定内容を変更することになります。



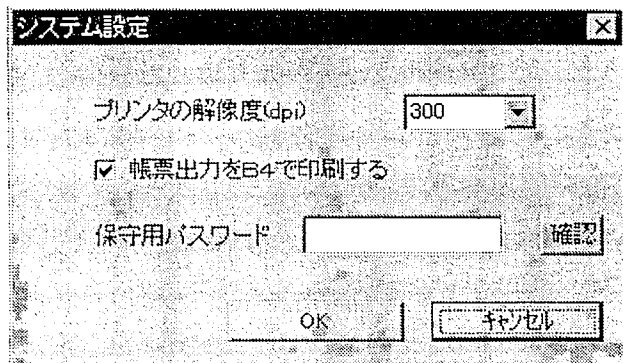
5-4. システム設定

システム全体に影響を及ぼす各種条件設定を入力、【OK】ボタンを押すことにより、修正内容が記憶されます。

■.プリンタの解像度は、使用するプリンタの機種に合わせて設定してください。この数値調整により拡大縮小印刷が可能です。

■.帳票出力をB4で印刷するをチェックした場合、B4サイズで印刷します。デフォルトはA4です。

■.パスワードを入力することで、KADECのメンテナンス時に使用する内部変数や拡張プログラムの変更等が可能になります。パスワードは「KADEC」です。このパスワードを入力することで前述の機能が使用可能になりますが、間違えて設定を変更するとKADECが正常に動作しなくなりますので取扱には、十分ご注意ください。保守用パスワードは通常の操作では使用しませんので特に入力する必要はありません。



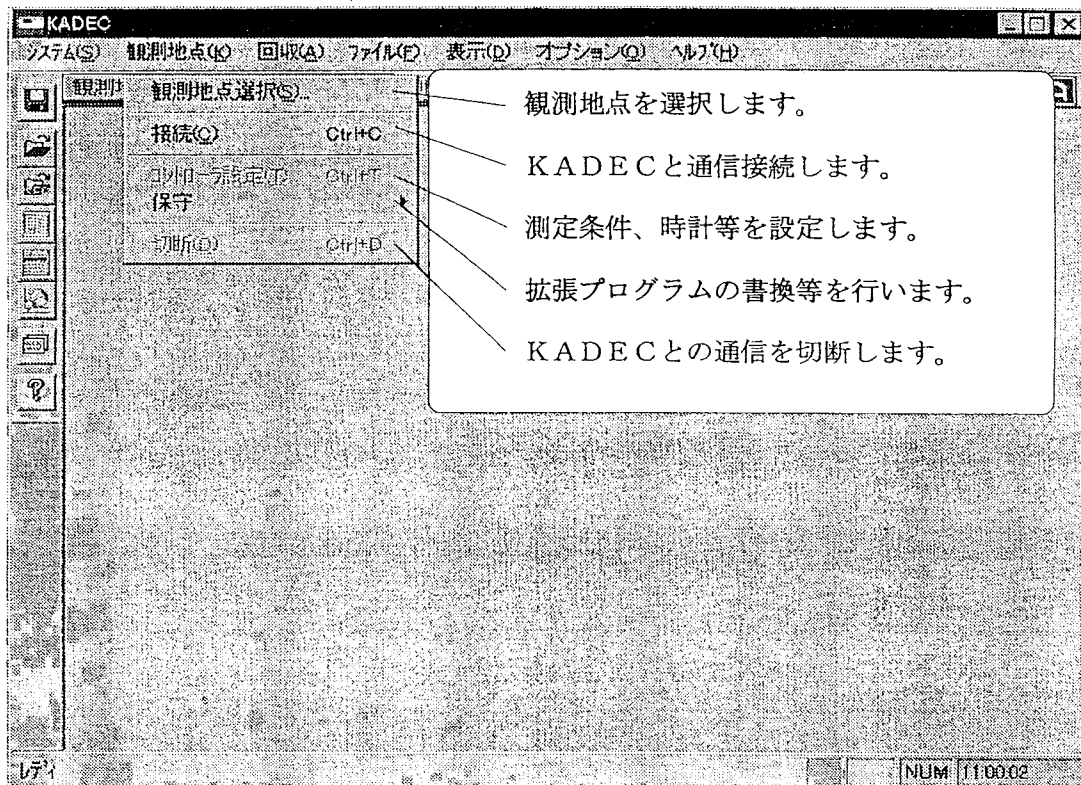
5-5. アプリケーションの終了

メテオウォッチスタンダードソフトを終了します。もし通信回線でメテオウォッチと接続していた場合は、通信回線を自動的に切断して終了します。

6. 観測地点

スタンダードソフトを実行する上で使用する各種設定項目（ファイル出力先、パソコンの使用するCOMポート、SEQやPRNファイルの作成有無など）や、KADECとの通信接続・切断、KADECの動作モードの設定等を行います。通信、データ処理を行なう前に内容の確認と設定を必ず行ってください。

メインメニューより「設定」を選択すると、次に示すサブメニューが表示されます。

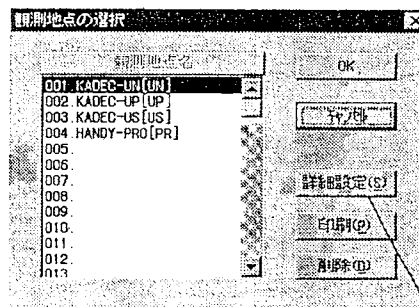


6-1. 観測地点選択

あらかじめ登録した観測地点を選択して【OK】ボタンを押すことにより、これ以降の各処理がその選択地点の設定条件をもとに実行します。

ここで、新規登録や登録内容を変更する場合は詳細設定のボタンをクリックします。

回収データの整理の為に機種毎や、測定現場毎に観測地点の設定を利用すると便利です。

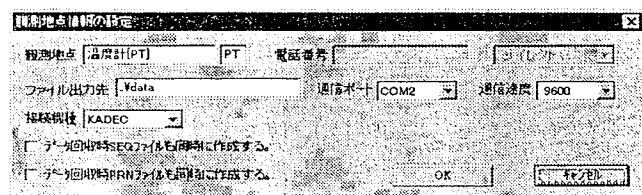


新規登録または変更する場合

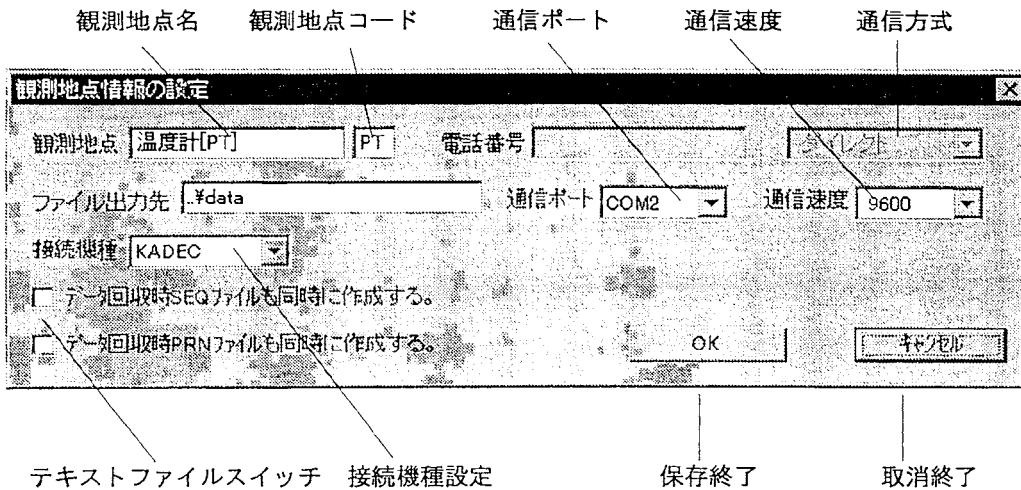
6-1-1. 観測地点設定

新規に観測地点を登録する場合や、登録地点の設定を変更する場合は、観測地点を選択して【詳細設定】ボタンを押してください。「観測地点設定」のダイアログが表示され、登録が可能となります。

【削除】ボタンを押すことにより、選択している観測地点情報をすべて削除します。



観測地点情報の設定内容を変更する場合は変更する項目にカーソルを移動してキー入力後、【OK】ボタンを押すことにより、修正内容が記憶されます。また【キャンセル】ボタンを押すことで変更内容が放棄されます。



■.観測地点名の設定は、必ず入力してください。半角で最大20文字（全角の場合10文字）までの任意の文字列を設定することができます。

■.観測地点コードの設定も、必ず入力してください。観測地点名登録位置の右の位置に、半角文字2文字のアルファベットを入力してください。このコードは、データファイルのファイル名の先頭につけられ、データの選別マークとしてシステムで使用されます。

■.通信ポート設定は、ご使用のパソコンのKADECを接続するCOMポート番号（RS-232Cのポート）をリストより選択してください。

■.接続機種設定は、KADEC、ハンディカードプロ、ハンディカードのどの機種からデータを回収するかを設定します。

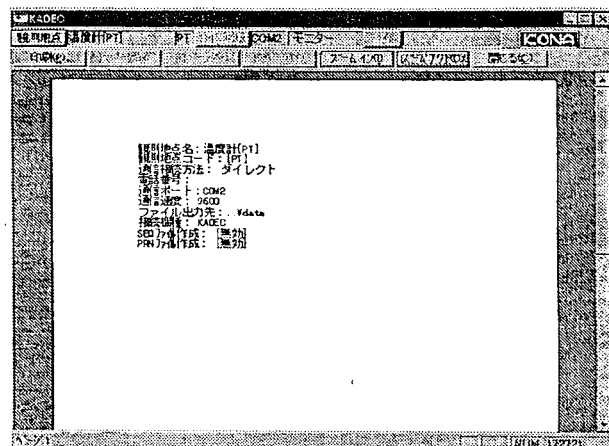
■.ファイル出力先の設定は、データを保存したいディスクドライブの指定とそのフォルダを指定します。

■.テキストファイルスイッチは、SEQ形式やPRN形式のファイルをデータ回収時にバイナリファイル作成と同時に作成する場合にマークします。

■.電話番号、通信方式、通信速度の各パラメータは使用しません。

6-1-2.観測地点情報の印刷

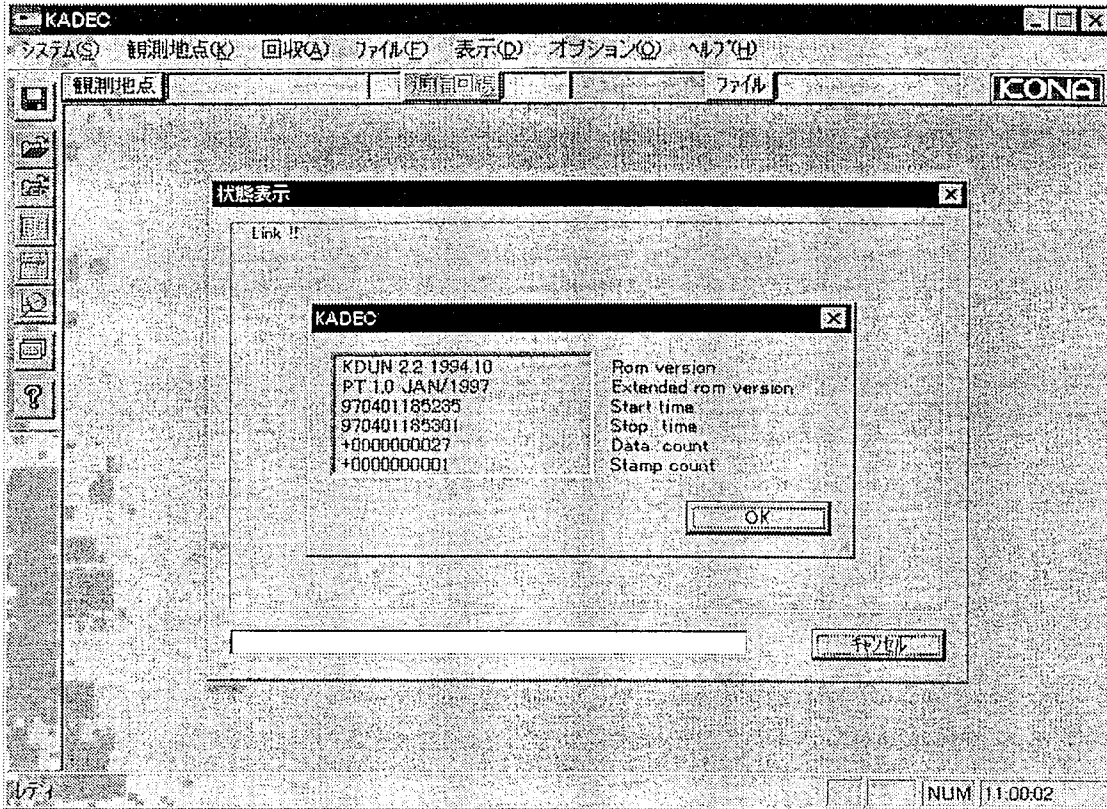
観測地点選択の画面で印刷ボタンを押すと、現在選択されている観測地点情報の設定内容が右図に示すように印刷プレビューが表示され、プリンタに印刷して確認することができます。



6-2.接続

KADECと通信接続を行います。接続が成功すると下図の様に「LINK!!」の表示がなされKADECの情報が表示されます。

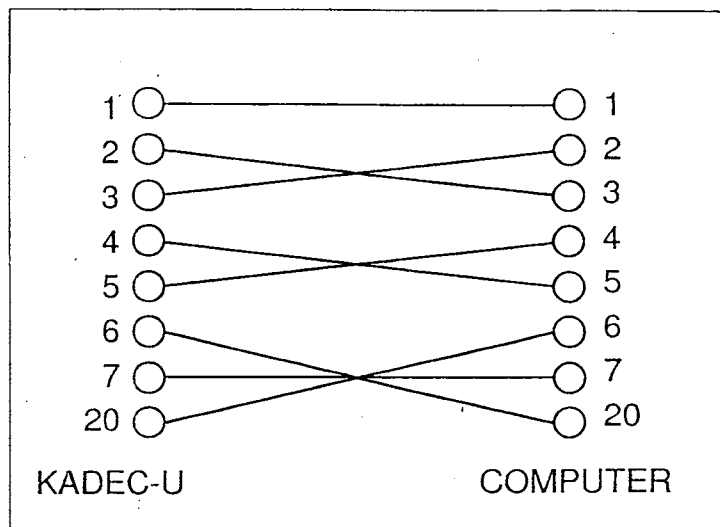
この時スタンダードソフトは通信速度を9600BPS、4800BPS、19.2KBPS、38.4KBPSと自動的に切り替えてKADECと通信接続を確立します。通常KADEC側は機器の最大通信速度に設定しておきます。



ご注意

※KADEC、ハンディカードプロとコンピュータを接続するケーブルは一般にクロスケーブルと呼ばれているケーブルで接続します。しかしケーブルメーカーによって微妙に結線が違っている場合もありますので、弊社指定のケーブル以外のケーブルを使用する場合は下図を参照してケーブルの結線を確認の上接続して下さい。

※ハンディカードとパソコンを接続する場合はハンディカード付属の専用ケーブル以外は使用できませんので、ご注意下さい。



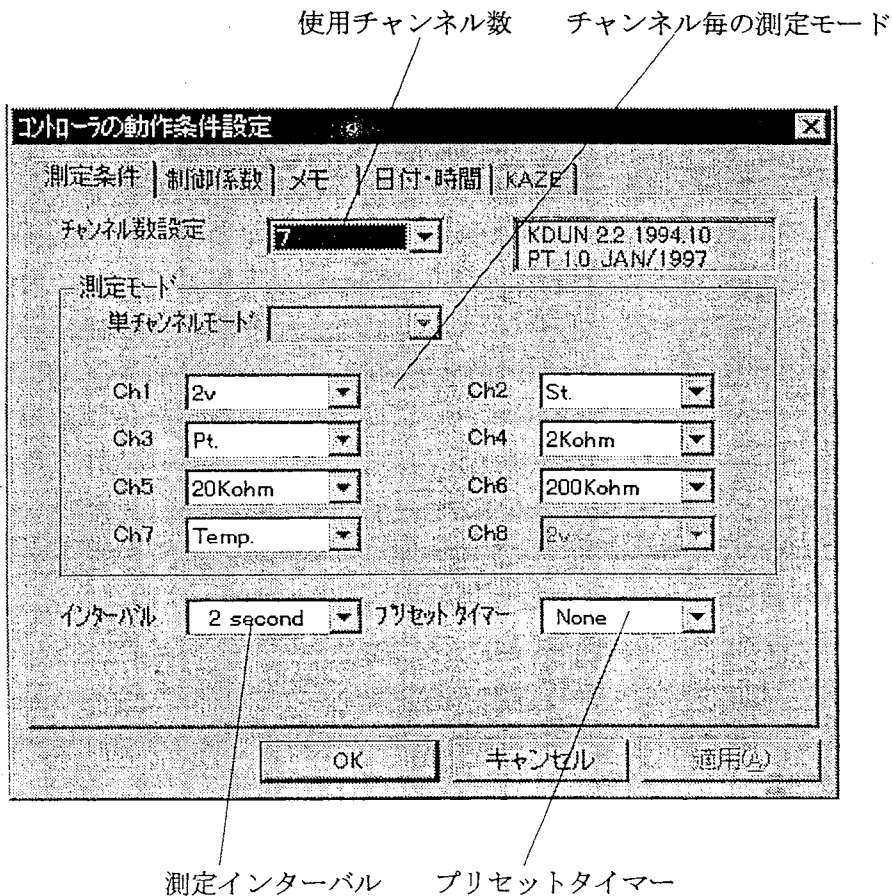
6-3. コントローラ設定

測定条件、制御係数、メモ、日付・時計、KAZE機能の設定を行います。

ただしシステム設定で保守用のパスワードを入力しないと制御係数の変更はできません。

6-3-1. 測定条件

KADEC-UN、US6の測定条件として以下の項目の設定が行えます。ただし測定インターバル、プリセットタイマーはKADEC-UNの場合のみ有効です。



■. 設定可能な使用チャンネル数はKADEC機種毎に違いますので各機種毎の取扱説明書を参照して設定して下さい。

■. チャンネル毎の測定モードを設定します。チャンネル毎の設定可能な組合せはKADEC機種毎に違いますので各機種毎の取扱説明書を参照して設定して下さい。

■. 測定インターバルを設定します。

■. プリセットタイマーを設定します。プリセットタイマーはKADEC-UNに8チャンネル切替器 (KDC-P4-UN) を接続した場合に有効です。また、プリセットタイマーの設定値はインターバル間隔より小さくなければいけません。測定インターバルとプリセットタイマーの関係が間違っていると正しく測定がされませんのでご注意下さい。また、切替器を使用した時の最小インターバル時間は1分です、したがってそれ以下の測定インターバルでは正しく切替器が動作しませんのでご注意下さい。

6-3-2.制御係数

KADEC-Uシリーズの動作、機能を制御する内部係数の確認と変更を行います。ただしお客様自身で係数を変更した場合の動作保証はいたしませんのでご注意ください。

また、本機能はKADECの動作に重要な意味を持つパラメータの変更を意味しますので、システム設定のところでパスワードを入力しないと参照のみで、変更がきかなくなっています。

コントローラの動作条件設定

測定条件 | 制御係数 | メモ | 日付・時間 | KAZE

CHAR 1. 0 設定

SHORT 1. 0 A/D offset 設定

LONG 1. 123456 設定

FLOAT 1. 0.757920 A/D gain 設定

TIME 1. 96/12/03 12:30:20 inspected time 設定

MEMO 1. 23024 serial number 設定

OK キャンセル 適用(A)

6-3-3.メモ

KADEC-Uシリーズのメモ情報の確認と変更を行います。測定データの整理等にご利用下さい。

コントローラの動作条件設定

測定条件 | 制御係数 | メモ | 日付・時間 | KAZE

MEMO 1

MEMO 2

MEMO 3

MEMO 4

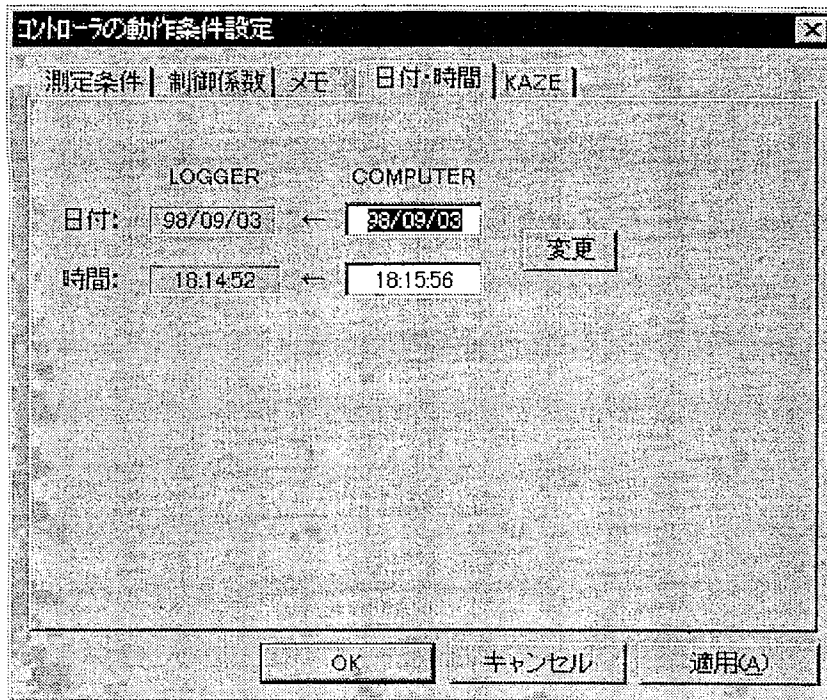
MEMO 5

MEMO 6

OK キャンセル 適用(A)

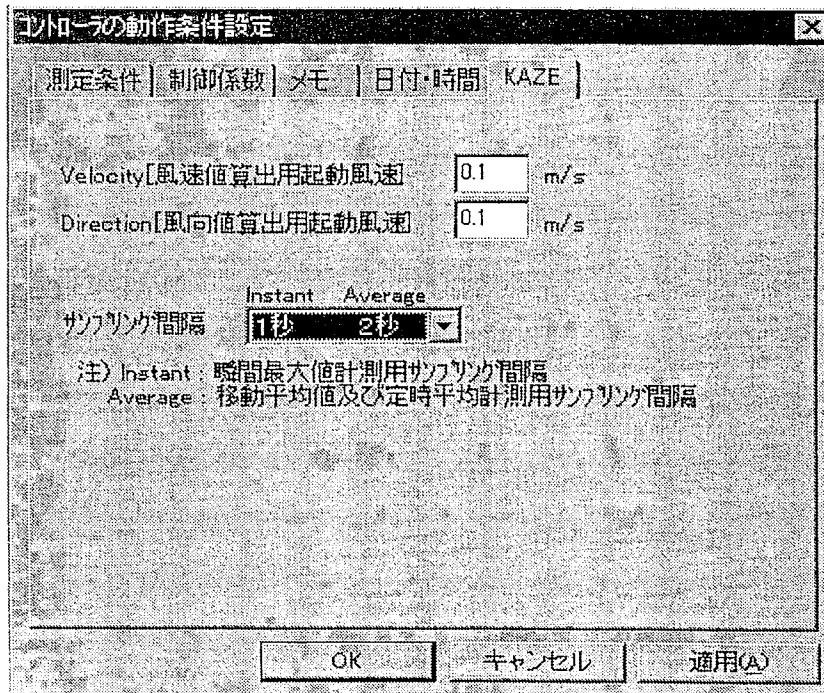
6-3-4.日付・時間

KADEC内蔵の時計の確認と変更を行います。



6-3-5.KAZE

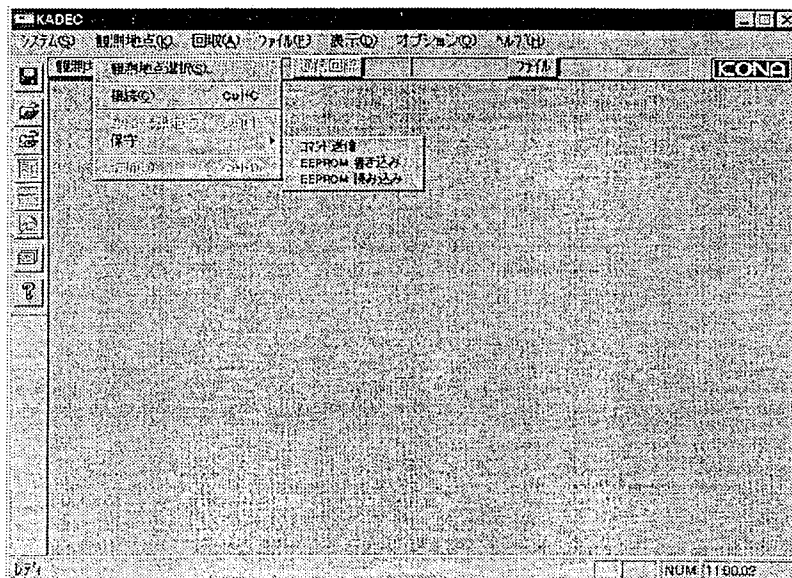
KADEC-UNシリーズの拡張機能の設定を行います。本バージョンのスタンダードソフトでのサポート機種はKADEC-KAZEのみで、下記の項目が設定できます。



- Velocity : 風速値算出用起動風速
- Direction : 風向値算出用起動風速
- Instant : 瞬間最大値計測用サンプリング間隔
- Average : 移動平均値及び定時平均計測用サンプリング間隔

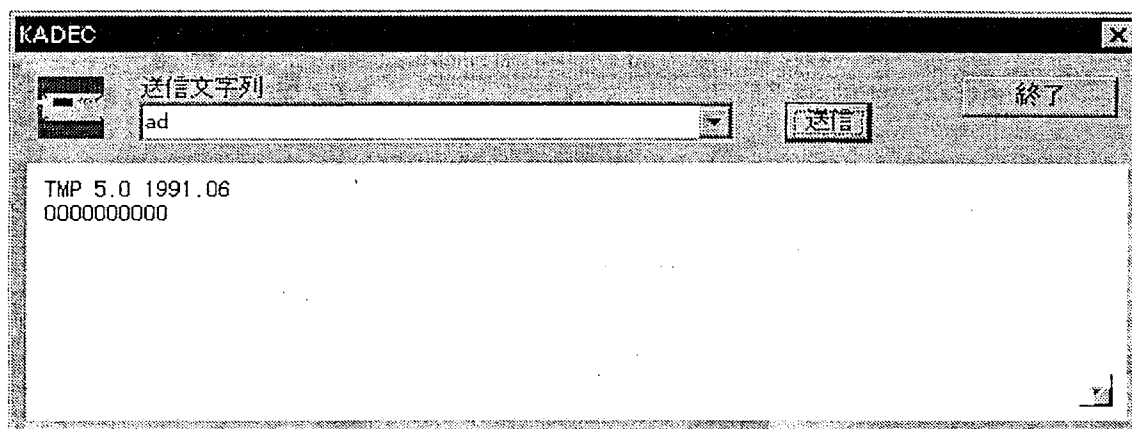
6-4.保守

KADECに対してコマンド送信及び拡張プログラムの書込等を行います。本機能はKADECの動作に重要な意味を持つパラメータの変更を意味しますので、システム設定のところでパスワードを入力しないと参照のみで、変更がきかないようになっています。



6-4-1.コマンド送信

KADECに対してコマンド送信を行います。有効なコマンドはKADECの機種によって異なりますので各機種の取扱説明書を参照の上コマンドを発行して下さい。送信する文字列は直接入力も可能です。また、画面上のは受信した文字列を表示します。



6-4-2.EEPROM書き込み、読込

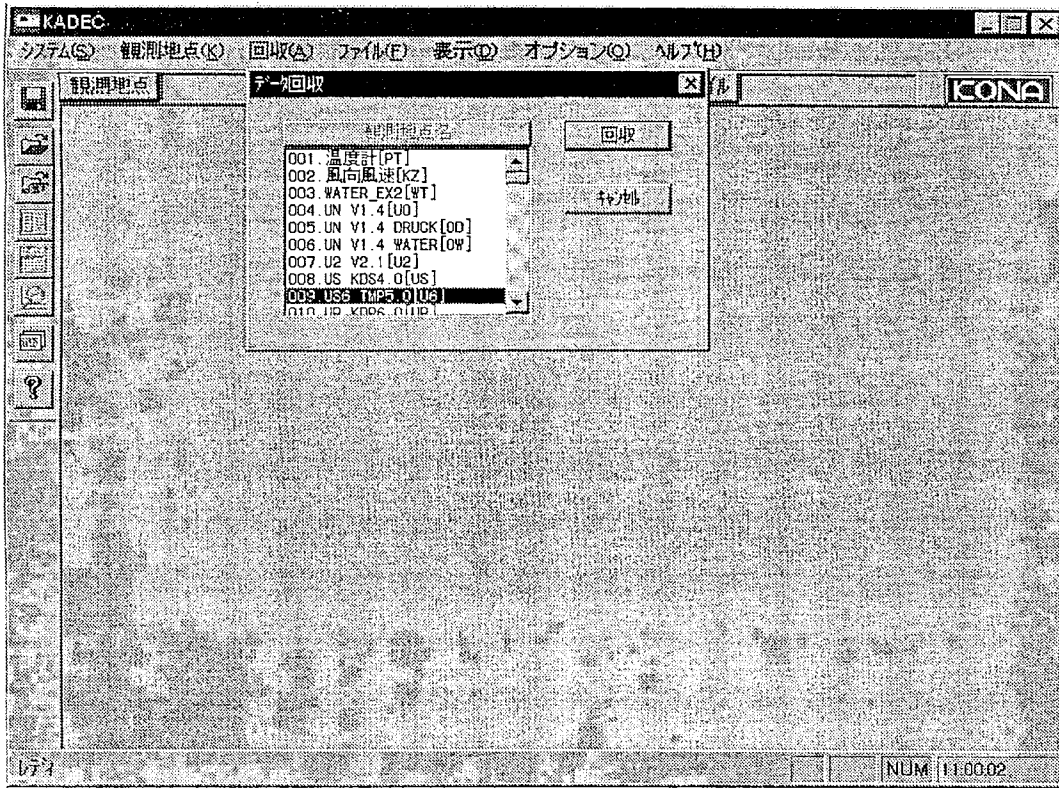
保守用の機能でメンテナンス時以外は使用しません。

6-5.切断

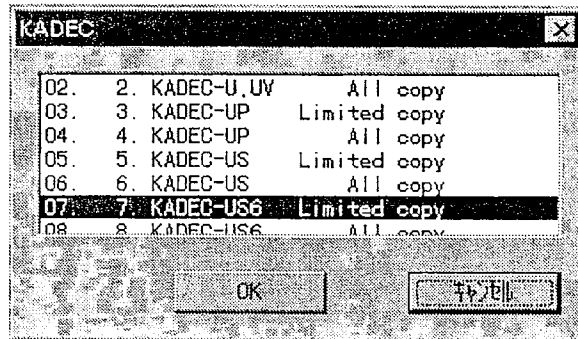
KADECとの通信を切断します。実行すると「回線切断中」のメッセージが表示されます。スタンダードソフトを終了する時や、別のKADECを接続する場合には一度、切断を実行して下さい。

7.回収

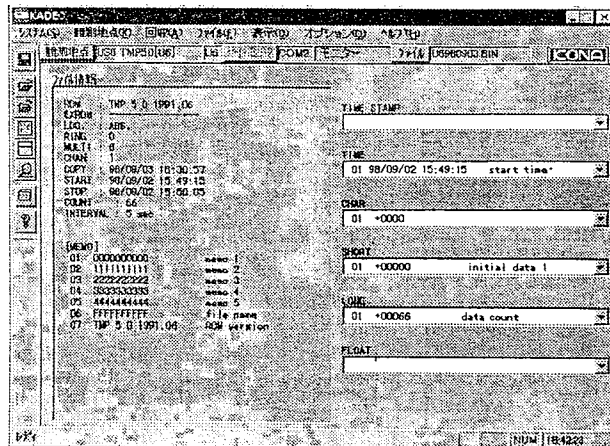
KADEC、ハンディカードプロ、ハンディカードから、記録したデータをパソコン内部に回収します。途中で【キャンセル】ボタンをクリックした場合、処理を中断します。



回収機種が、U、UV、UP、US、US6の場合は右図のようなメニューが表示されます。データ回収の方法をLIMIT、ALLで指示して下さい。LIMITは測定したデータのみ回収、ALLはメモリ全て回収を意味します。



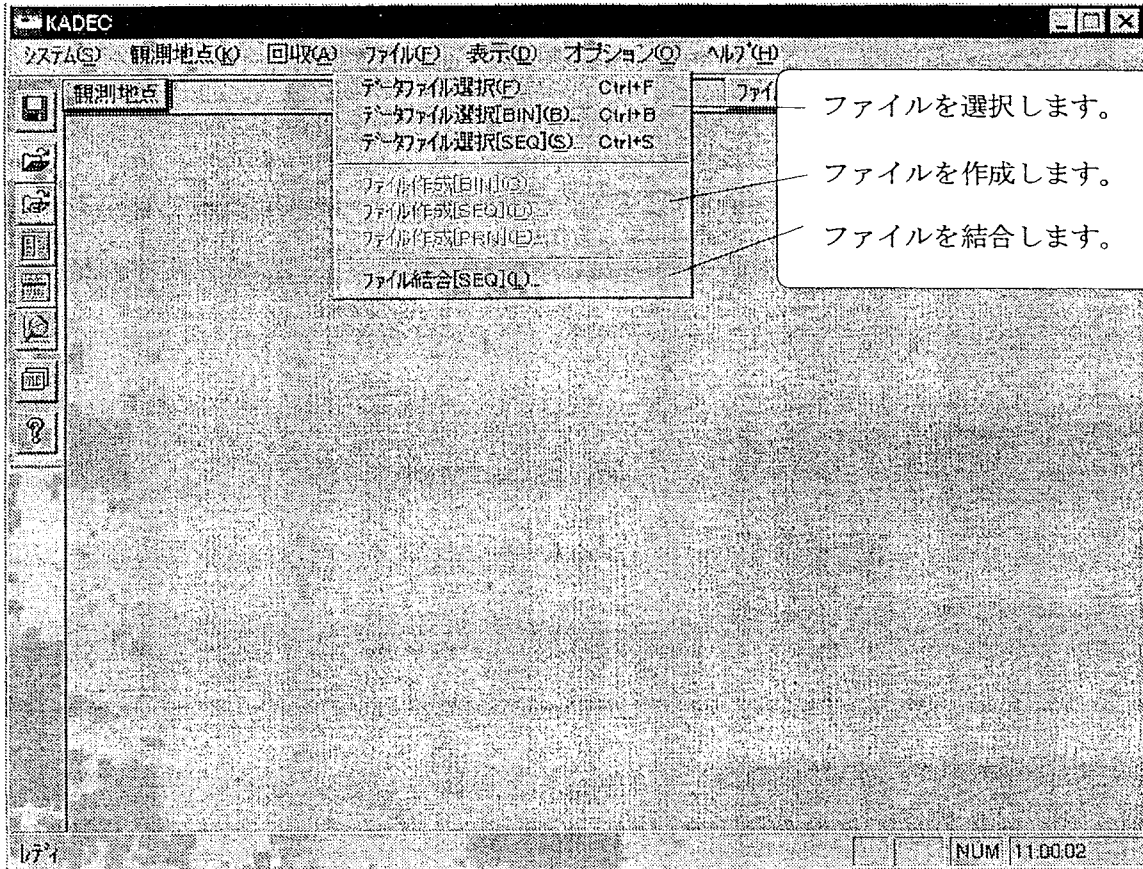
データ回収が終了すると、以下の様にファイル情報を表示します。



8.ファイル

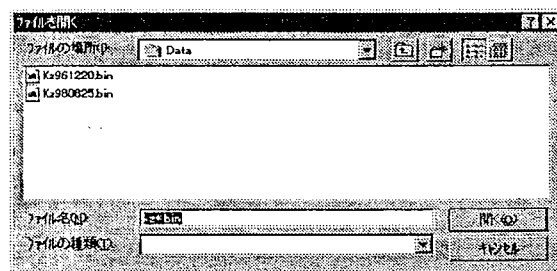
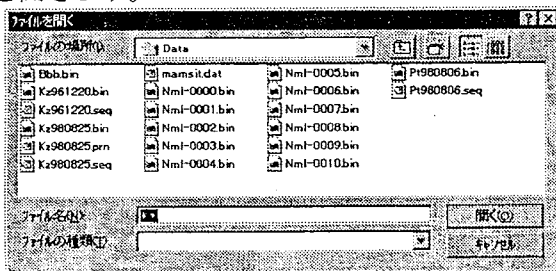
スタンダードソフトで「表示」、「グラフ」等の各処理を実行する上で、目的とするデータファイルを開きます。また、SEQ・PRNファイル作成、SEQファイルの結合を行います。

メインメニューより [ファイル] を選択すると、次に示すサブメニューが表示されます。



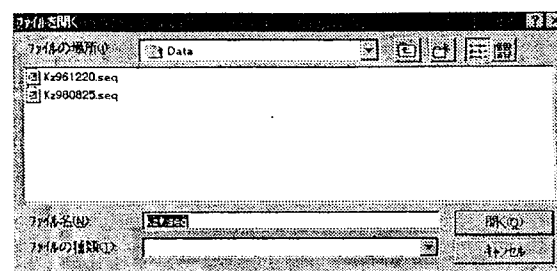
8-1.データファイル選択

スタンダードソフトで「データ表示」、「グラフ表示」等の各処理を実行する上で、目的とするデータファイルを開きます。



すでに回収したデータファイルをフォルダから選択して開きます。ここで開いたデータが後述するデータ表示、グラフ表示の対象データとなります。ファイル選択には全てのファイル、拡張子BIN、拡張子SEQの3通りの選択が可能です。

ただしSEQ形式を指定した場合に読込めるのはスタンダードソフトVer 2.XXのテキスト形式のファイルです。Ver 3.x.x、4.x.xで作成したPLSとKAZEのSEQ形式は読込めません。



8-2.ファイル作成

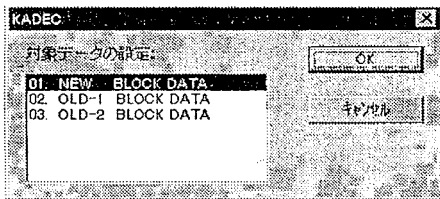
既にスタンダードソフト内に読込まれているデータを所定の形式でファイルに格納します。

8-2-1.ファイル作成 [BIN]

スタンダードソフト内に読込まれているデータをバイナリ形式のファイルに格納します。データを修正した場合には必ず実行して下さい。

8-2-2.ファイル作成 [SEQ]、ファイル作成 [PRN]

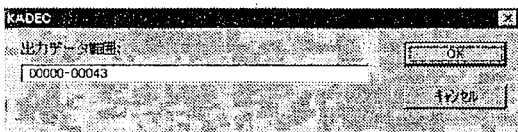
スタンダードソフト内に読込まれているデータをテキスト形式のSEQファイルに格納します。PRN形式は時刻とデータが対になったテキスト形式のファイルです。



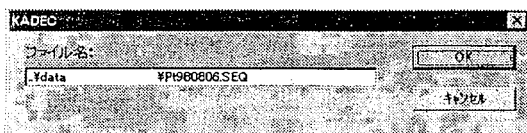
リングモードで記録されているデータの場合はリングを指定します。



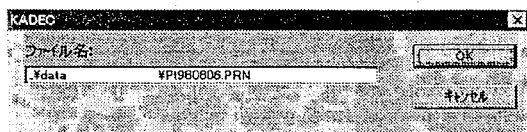
測定インターバルを指定します。



ファイル化するデータ範囲を指定します。

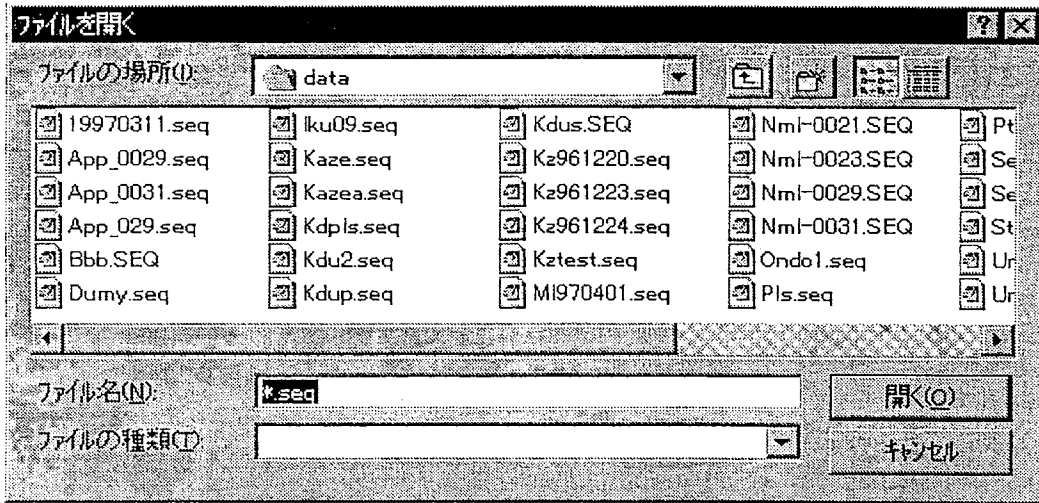


出力ファイル名を指定します。

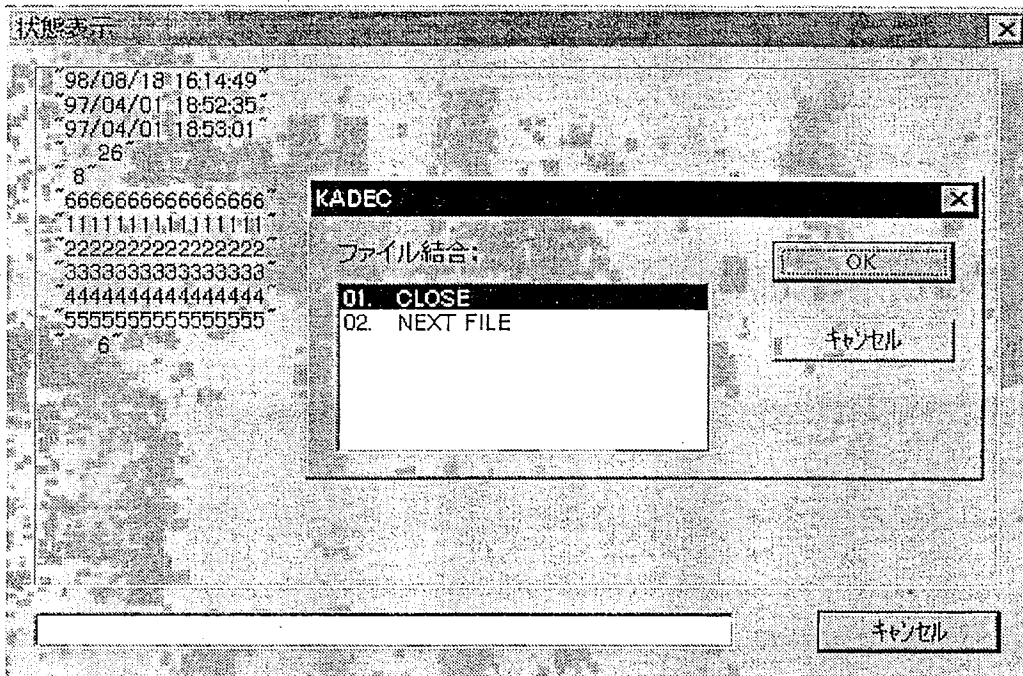


8-3.ファイル結合

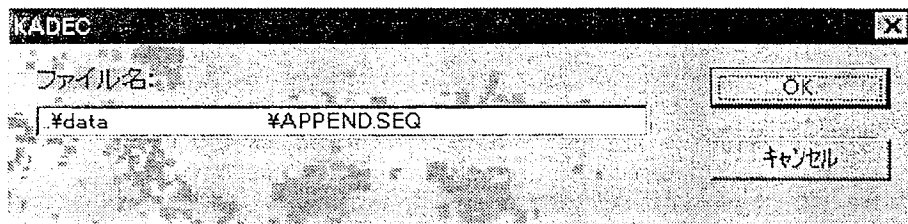
SEQファイルの結合を行います。この時結合するファイルは連続して測定され、かつ同じ測定インターバル、同じデータ形式でなくてはファイル結合が正しく行われません。



結合するSEQを選択します。



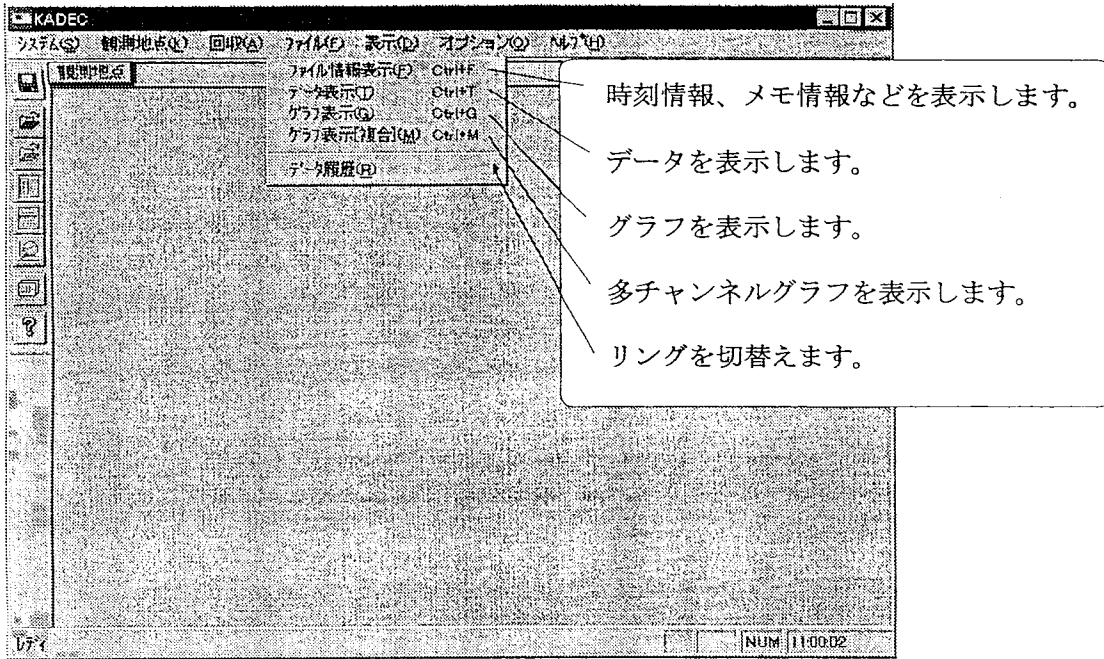
次に結合するファイルが無い場合は「CLOSE」を、次に結合するファイルがある場合は、「NEXT FILE」を選択します。



格納するファイル名を指定します。

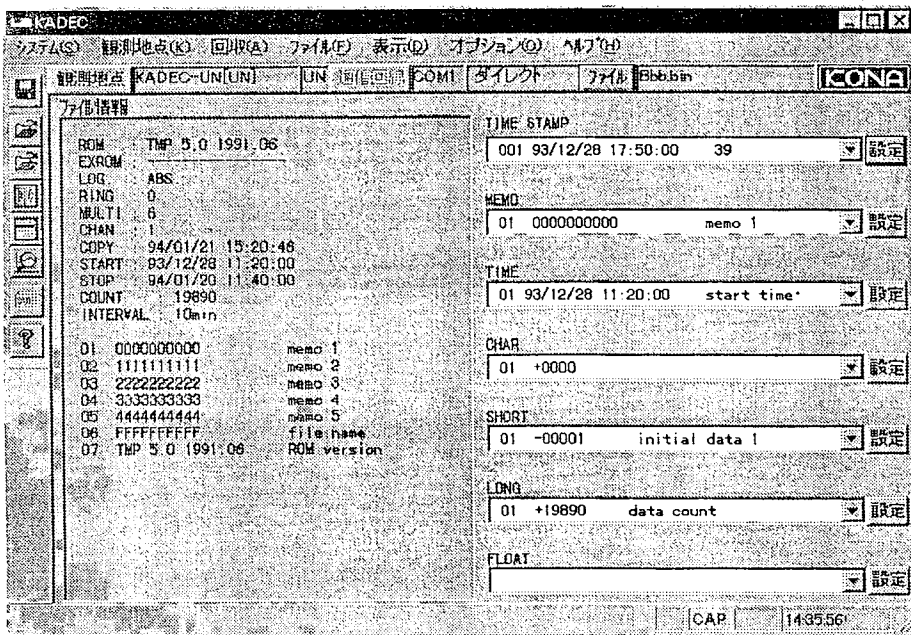
9. 表示

表示処理は画面の表示形式を、ファイル情報、データ表示、グラフ表示に切り替えます。メインメニューより [ファイル] を選択すると、次に示すサブメニューが表示されます。



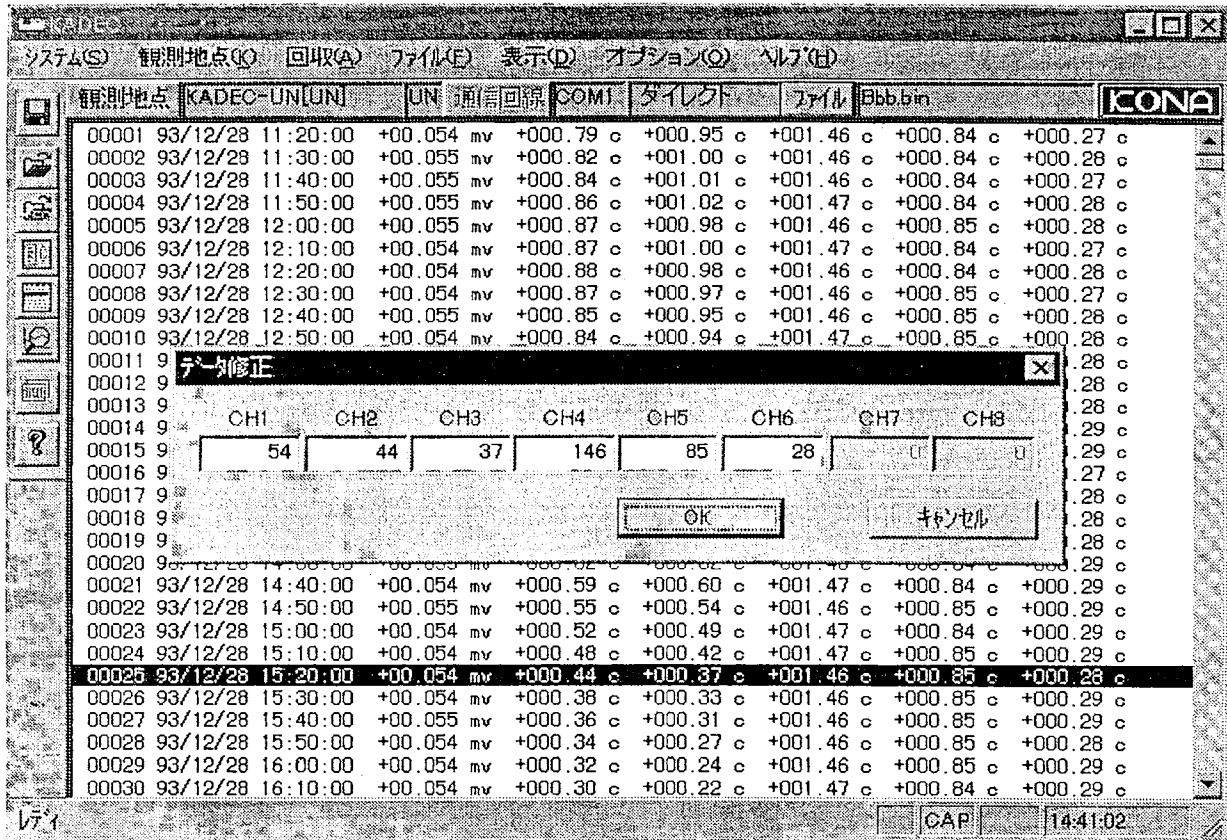
9-1. ファイル情報表示

スタンダードソフト内に読込まれているファイルの時刻情報、メモ情報などを表示します。



9-2. データ表示

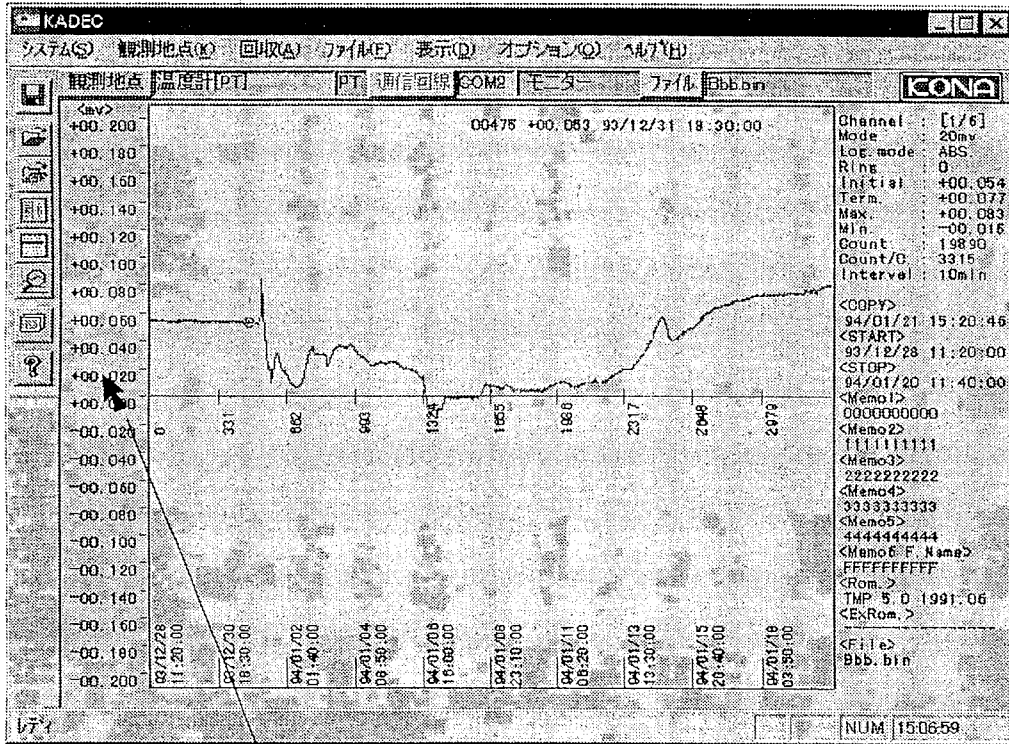
スタンダードソフト内に読込まれているデータファイルを表示します。画面右のスクロールバーをマウスで操作することでデータがスクロールしていきます。



データ編集を行う場合は、目的のデータの位置にマウスを移動して、左ボタンをクリックすると1行単位のカーソルが表われます。ここでデータを修正する場合はダブルクリックするとデータの修正ができます。修正したデータはファイルメニューのファイル作成処理でファイルとして保存可能です。

9-3. グラフ表示

スタンダードソフト内に読込まれているデータファイルをグラフ表示します。多チャンネルで測定されたデータは、下図に示す様にマウスポインタをグラフの欄外に移動させアイコンを操作することにより、他のチャンネルデータも順次表示することができます。左クリックで表示チャンネルが1つ進み、右クリックで初期表示チャンネルに戻ります。



左クリックで表示チャンネルの切替

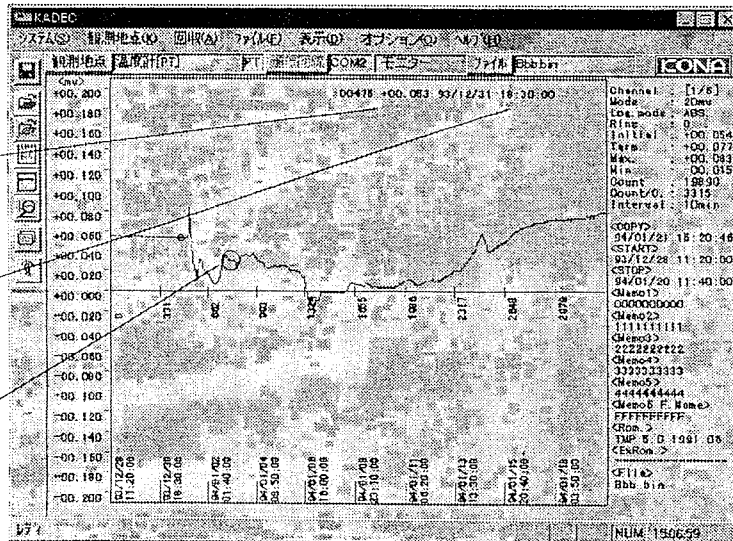
9-3-1. カーソルによるポイント数値表示

グラフ表示画面上でマウスを操作してカーソルを目的位置まで移動することにより、そのポイントの日付時間および各チャンネルの観測データを数値表示します。

また、多チャンネル測定データのデータは、マウスポインタをグラフの欄外に移動させアイコンを操作することにより、他のチャンネルデータ表示に切替えることができます。

左クリックで表示チャンネルが1つ進み、右クリックで初期表示チャンネルに戻ります。

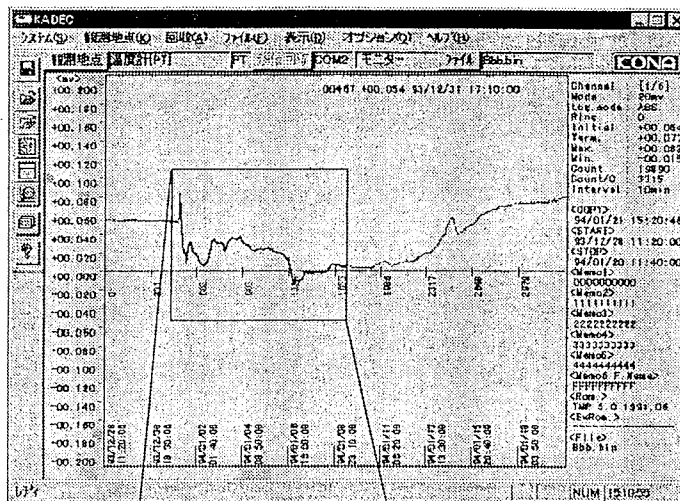
観測データ
日付時間
カーソル



9-3-2. グラフの拡大

部分拡大表示を行いたい場合、拡大したいグラフの開始位置でマウスの左ボタンを押し、そのまま終了位置に移動させマウスの左ボタンを離すことにより行うことができます。このときマウスの移動に応じた四角い範囲で拡大位置が表示され確認することができます。

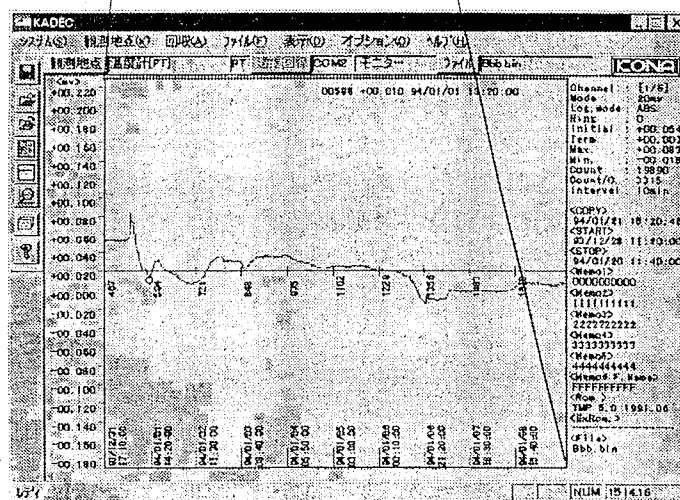
拡大表示を行った画面に対して上記と同じ操作を繰り返すことにより、さらに部分拡大を行うことができます。



拡大開始位置



拡大終了位置



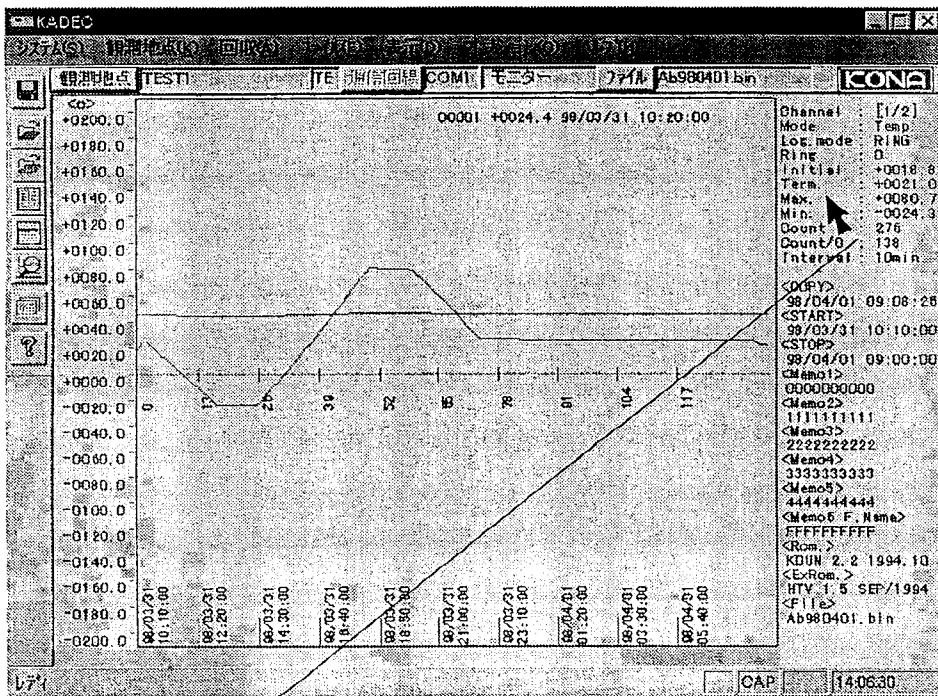
9-3-3. グラフ表示の印刷

各グラフ表示処理を実行中、印刷機能を実行することにより、画面のハードコピー（画面のイメージをそのままプリンタに印刷する）をとることができます。

Windows上で動作するカラープリンタが接続されている場合、カラーで印刷することも可能です。

9-4. グラフ表示 [複合]

スタンダードソフト内に読み込まれているデータファイルをグラフ表示します。多チャンネルで測定されたデータは、下図に示す様に全チャンネルまとめて一画面に表示します。この場合グラフ左の縦軸の単位、スケールは1チャンネル目の単位で表示されます。



左クリックでチャンネルの切替

9-4-1. カーソルによるポイント 数値表示とグラフの拡大

グラフ表示画面上でマウスを操作してカーソルを目的位置まで移動することにより、そのポイントの日付時間および各チャンネルの観測データを数値表示します。また、多チャンネル測定データは、グラフの欄外に移動させアイコンを操作することにより、他のチャンネルデータ表示に切替えることができます。

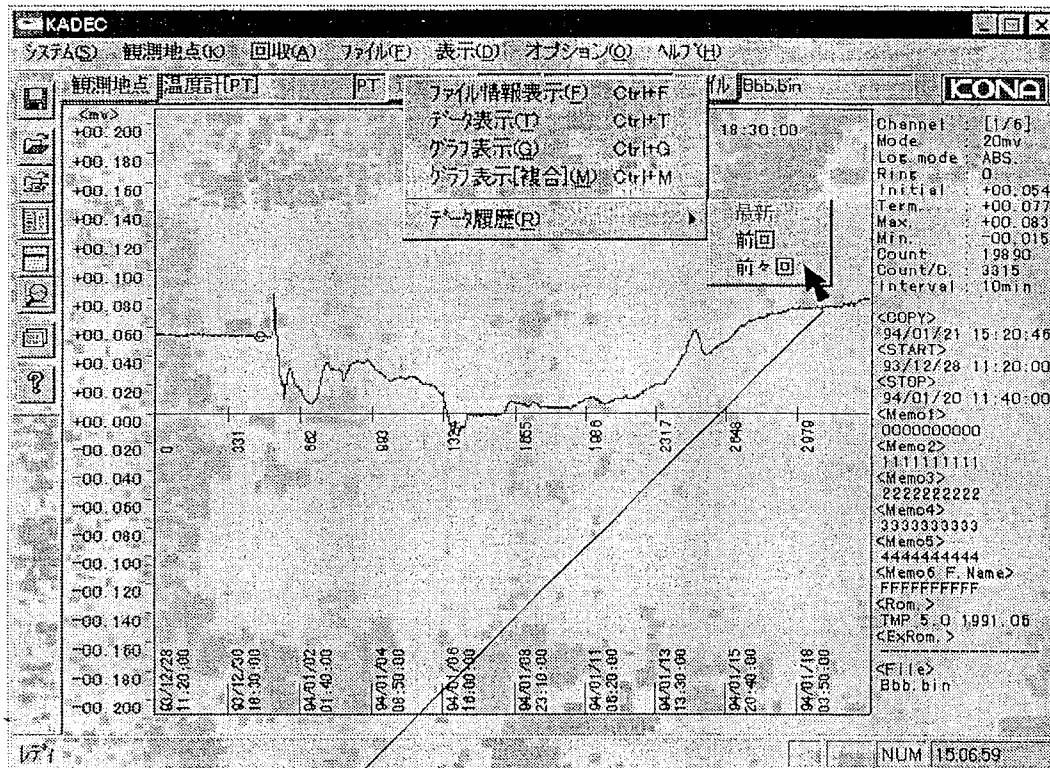
また 部分拡大表示を行いたい場合、拡大したいグラフの開始位置でマウスの左ボタンを押し、そのまま終了位置に移動させマウスの左ボタンを離すことにより行うことができます。このときマウスの移動に応じた四角い範囲で拡大位置が表示され確認することができます。

拡大表示を行った画面に対して上記と同じ操作を繰り返すことにより、さらに部分拡大を行うことができます。

この操作は単チャンネルのグラフ表示 (9-3) と同様です。

9-5.データ履歴

スタンダードソフト内に読み込まれているKADECのデータがリングモードで記録されている場合、以下の様に操作することでリングを遡って表示することができます。



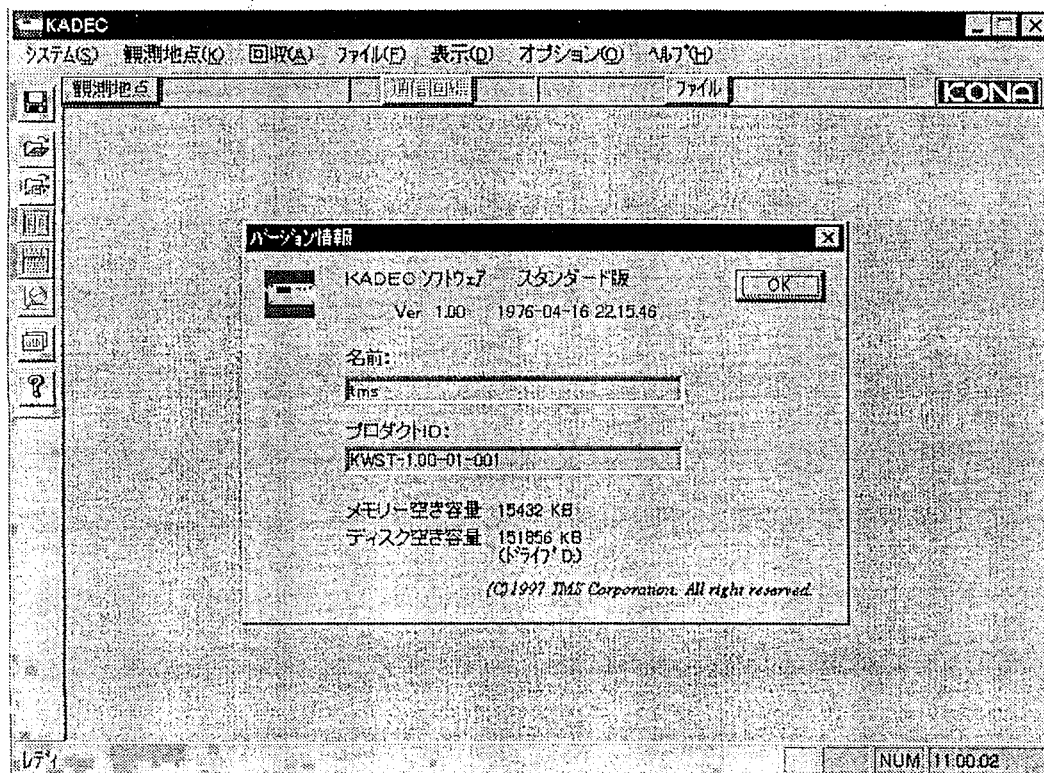
マウスでどのデータを表示するか選択します。

10. オプション

別売りの日報月報処理ソフト等を組み込むと、このオプションメニューから起動できるようになり、KADECスタンダードソフトと日報月報処理ソフト等が統合環境で使用できるようになります。

11. ヘルプ

メインメニューの「ヘルプ」を選択して、サブメニューの「バージョン情報」を実行することにより、下図に示すダイアログが表示されます。



このダイアログで、本ソフトのバージョン番号および作成日を知ることができます。また、ユーザー登録で設定した使用者の名前、プロダクトIDおよびパソコン本体のメモリー、ハードディスクの空き容量が表示されます。本ソフトに関するお問い合わせ時には必ず参照して下さい。

1 2. 操作上の注意事項

スタンダードソフトをご使用するにあたって、正常な動作ができないとき、次の事項の確認を行なってください。なお、詳細につきましてはそれぞれの機器付属マニュアル等を合わせて参照してください。

(1) ソフト起動時について

データ回収先のドライブをフロッピーディスクにしている場合、コンピュータの電源を入れてWindowsが立ち上がったからフロッピーディスクを静かに挿入してください。また、フロッピーディスク挿入時は、ディスクを書き込み可能状態にして使用してください。もし、書き込み不可の状態にしておきますと、実行中に回収した内容が記録されません。

スタンダードソフトを動作するときの確認事項の順番は次のとおりです。

- ・KADECの電源がONであるか?、また通信モードに設定されているか?
- ・RS-232Cケーブルは、確実に接続されているか?
- ・周辺機器の電源を入れてからコンピュータの電源を入れます。
- ・データ回収先がフロッピーディスクの場合はドライブにセットします。(空容量を確認)

(2) ソフト運用上の設定について

スタンダードソフトを運用して観測したデータを処理するとき、まず最初に観測地点選択処理を実行して、通信条件の設定、ソフトの動作設定などを行なう必要があります。ただし、各設定内容を変更または新規登録した場合、この処理を終了する前に必ず【OK】または【保存】ボタンをクリックして保存してください。もし、この保存操作を行わないで終了後、メインメニューにもどった場合、設定したデータは保存されず、正常な動作をしない場合があります。

スタンダードソフト各処理実行上、必要な設定項目は次のとおりですのでご確認ください。

- ・観測地点名と観測地点コードは登録しているか?
- ・通信接続方式の選択設定を確認。(異なった設定の場合、通信動作はできません。)
- ・ファイル出力先の設定の確認。(接続または設定されていないドライブおよび存在しないフォルダ等に設定されていないか?)

(3) 保存用データディスクについて

データ保存用のフロッピーディスクは、MS-DOSフォーマットしてからご使用ください。また、データディスクに使用するメディアサイズは、2HD(1Mバイト)ディスクを標準対象としています。

ディスクのフォーマットするにあたっての確認事項は次のとおりです。

- ・フロッピーディスクが3.5インチ(5インチ)の2HDであるか。
- ・フロッピーディスクが書き込み可能状態か。

(4) ソフト運用上のエラーについて

スタンダードソフトを運用中に発生する各エラーは、次の表のとおりです。エラーが発生したとき、参考にしてください。表中に示すエラーについては、マメダススタンダードソフト上でエラー処理をおこなっているものです。

発生エラー	内容
回収先の選択が不当です	データ回収時、指定回収先が初期設定されていない
回線接続 エラー	KADECとの回線接続時、通信エラー
他の回線接続中	データ回収時、すでに他のKADECに接続中
通信ポート使用中	KADECとの回線接続時、通信ポートがすでに使用中
モデム応答なし	KADECとの回線接続時、モデムの応答なし
観測地点コード (ファイル名) が不当です	観測地点の条件設定において、地点コードが不当
ファイル名が不当です	データファイル作成時、ファイル名が不当
ファイルが削除できません	データファイル作成時、ファイル削除が不可
パスワードが不正です。再度入力してください	パスワードが不当
logger type attribute error !!	データファイル読み取り時、認識できない機種タイプ
memo attribute error !!	データファイル読み取り時、[memo]情報が不当
time attribute error !!	データファイル読み取り時、[time]情報が不当
time stampe attribute error !!	データファイル読み取り時、[time stampe]情報が不当
sample data attribute error !!	データファイル読み取り時、[sample data]情報が不当
char parameter attribute error !!	データファイル読み取り時、[char parameter]情報が不当
short parameter attribute error !!	データファイル読み取り時、[short parameter]情報が不当
long parameter attribute error !!	データファイル読み取り時、[long parameter]情報が不当
float parameter attribute error !!	データファイル読み取り時、[float parameter]情報が不当
rom version attribute error !!	データファイル読み取り時、[ROMバージョン]情報が不当
interval attribute error !!	データファイル読み取り時、[インターバル]情報が不当
extra rom attribute error !!	データファイル読み取り時、[拡張ROMバージョン]情報が不当
copy time attribute error !!	データファイル読み取り時、[コピー時間]情報が不当
xmodem attribute error !!	データファイル読み取り時、[xmodem]情報が不当
can't make temporary file !!	システム初期化時、テンポラリファイルが作成できない
Rx error !!	通信時の受信エラー
Tx error !!	通信時の送信エラー
file write error !!	データ回収時、ファイル作成エラー
this seq-date not support!!	データファイル読み取り時、本ソフトでサポートされていないSEQファイル
Not Support !!	データ修正時、サポートされていない機種タイプ
Illegal error	ハンディカードよりデータ回収時、不当データ
time over error	ハンディカードよりデータ回収時、タイムオーバー

1998年 11月01日 第1版 第1印刷 (暫定版)

コーナシステム株式会社 営業企画室

●お問い合わせは下記までご連絡ください。

コーナシステム株式会社

札幌営業部	〒004-0015	札幌市厚別区下野幌テクノパーク1丁目2番11号	TEL:011(897)8000	FAX:011(897)8001
東京支店	〒171-0014	東京都豊島区池袋2丁目55番13号 合田ビル	TEL:03(3983)8297	FAX:03(3983)8298
福岡営業所	〒819-0042	福岡県福岡市西区老岐団地136-3-304ヴェルデクス西福岡	TEL:092-811-3005	FAX:092-811-3006
